

基本計画書

基本計画								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	専門職大学の設置							
フリガナ設置者	ガッコウホツシン ツクハガクエン 学校法人 筑波学園							
フリガナ大学の名称	アールイヨウセンモンシヨクダイガク アール医療専門職大学 (R Professional University of Rehabilitation)							
大学本部の位置	茨城県土浦市湖北二丁目10番35号							
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、専門性を求められる職業を担うための実践的かつ応用的な能力を展開して、豊かな人間性と高い職業倫理を備え、障害のある幼児、児童等や地域在住高齢者の支援ができる人材を養成するための教育ならびに研究を实践し、全員参加型社会の実現に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的	保健医療専門職としての責任感と使命感を持ち、高度な専門知識に基づく確かな技術を実践するとともに、全員参加型社会の実現に向けて支援できるために、医療提供施設だけの臨床実践能力に留まらず、地域との連携を意識した臨床実践能力を有することができる創造力豊かなリハビリテーション専門職業人を養成する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	リハビリテーション学部 [Faculty of Rehabilitation]	年	人	年次人	人		年 月 第 年次	茨城県土浦市湖北二丁目10番35号 茨城県土浦市川口二丁目12番31号 茨城県土浦市湖北一丁目5203-2、5203-3
	理学療法学科 [Department of Physical Therapy]	4	40	—	160	理学療法学士 (専門職) [Bachelor of Physical Therapy]	令和4年4月 第1年次	
	作業療法学科 [Department of Occupational Therapy]	4	40	—	160	作業療法学士 (専門職) [Bachelor of Occupational Therapy]	令和4年4月 第1年次	
計		80	—	320				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	アール医療福祉専門学校 理学療法学科(廃止) (△40) *令和3年4月より学生募集停止 作業療法学科(廃止) (△40) *令和3年4月より学生募集停止							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実習	計			
	リハビリテーション学部 理学療法学科	86 科目	7 科目	24 科目	117 科目	134 単位		
リハビリテーション学部 作業療法学科	82 科目	7 科目	25 科目	114 科目	134 単位			

教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
	新 設	リハビリテーション学部 理学療法学科	7 (7)	1 (0)	3 (3)	1 (0)	12 (10)	0 (0)	51 (15)
		リハビリテーション学部 作業療法学科	5 (3)	3 (2)	1 (1)	3 (2)	12 (8)	0 (0)	53 (17)
		計	12 (10)	4 (2)	4 (4)	4 (2)	24 (18)	0 (0)	— (—)
		該当なし	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		計	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)
		合 計	12 (10)	4 (2)	4 (4)	4 (2)	24 (18)	0 (0)	— (—)
教 員 以 外 の 職 員 の 概 要	職 種		専 任		兼 任		計		
	事 務 職 員		16 (15)		2 (2)		18 (17)		
	技 術 職 員		— (—)		— (—)		— (—)		
	図 書 館 専 門 職 員		2 (1)		2 (2)		4 (3)		
	そ の 他 の 職 員		— (—)		— (—)		— (—)		
	計		18 (16)		4 (4)		22 (20)		
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
	校 舎 敷 地	5,397.07 m ²	1,653.00 m ²		1,314.96 m ²		8,365.03 m ²		
	運 動 場 用 地	0.00 m ²	0.00 m ²		0.00 m ²		0.00 m ²		
	小 計	5,397.07 m ²	1,653.00 m ²		1,314.96 m ²		8,365.03 m ²		
	その他(駐車場)	495.43 m ²	0.00 m ²		395.04 m ²		890.47 m ²		
	合 計	5,892.50 m ²	1,653.00 m ²		1,710.00 m ²		9,255.50 m ²		
校 舎		専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用		計		
		7,157.42 m ²	1,319.66 m ²		3,815.90 m ²		12,292.98 m ²		
		(7,157.42m ²)	(1,319.66m ²)		(3,815.90m ²)		(12,292.98m ²)		
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設			
	16 室	3 室	9 室	1 室 (補助職員 0人)		0 室 (補助職員 0人)			
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称			室 数				
		リハビリテーション学部 理学療法学科			13 室				
		リハビリテーション学部 作業療法学科			14 室				

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	その他、看護棟 図書室の図書 (5,434冊)を 共用する。			
	リハビリテーション学部	19,959 [1,343] (15,959 [1,143])	65 [10] (65 [10])	30 [10] (20 [0])	100 (88)	1,670 (1,670)	234 (234)				
	計	19,959 [1,343] (15,959 [1,143])	65 [10] (65 [10])	30 [10] (20 [0])	100 (88)	1,670 (1,670)	234 (234)				
図書館		面積 251.47 m ²		閲覧席数 80		収納可能冊数 25,000		大学全体			
体育館		面積 737.29 m ²		体育館以外のスポーツ施設の概要 なし							
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	教員1人当り研究費等		300千円	300千円	300千円	300千円	－千円	－千円			
	共同研究費等		2,000千円	2,000千円	2,000千円	2,000千円	－千円	－千円			
	図書購入費	47,476千円	400千円	400千円	400千円	400千円	－千円	－千円			
	設備購入費	165,752千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円	－千円			
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
	1,750千円	1,450千円	1,450千円	1,450千円	－千円	－千円					
学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入・雑収入・資産運用収入等								
既設大学の状況	大学の名称	アール医療福祉専門学校							*令和3年度より 学生募集停止 (理学療法学科、 作業療法学科)		
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地	
		年	人	年次人	人		倍			茨城県土浦市湖北二丁目10番35号	
	看護学科	3	40	－	120	専門士	1.01	平成21年度			
	理学療法学科	4	40	－	160	高度専門士	1.04	平成13年度			
	作業療法学科	4	40	－	160	高度専門士	0.72	平成13年度			
	介護福祉学科	2	40	－	80	専門士	0.46	平成10年度			
	日本語学科(1年6か月コース)	1.5	20	－	40	－	0.05	平成30年度			
	日本語学科(1年コース)	1	20	－	20	－	0.00	平成30年度			
	医療事務学科	2	20	－	40	専門士	0.60	令和2年度			
	ITビジネス学科	2	20	－	40	専門士	1.05	令和2年度			
	大学の名称	アール情報ビジネス専門学校								*令和元年度より 学生募集停止 (全学科)	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度			所在地
		年	人	年次人	人		倍				茨城県土浦市湖北二丁目10番35号
情報通信学科	2	－	－	20	専門士	－	昭和60年度				
総合ビジネス学科	2	－	－	20	専門士	－	昭和60年度				
行政ビジネス学科	2	－	－	20	専門士	－	昭和60年度				
行政学科	1	－	－	－	－	－	昭和60年度				
医療秘書学科	2	－	－	20	専門士	－	昭和60年度				
附属施設の概要	該当なし										

教育課程等の概要																
(リハビリテーション学部理学療法学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	初年度 セミナー	大学入門セミナー	1前	1			○			2					オムニバス	
	人間と生活及び社会の理解	社会人基礎力	1前	1			○						1		兼2	オムニバス
		教育学	1前	1			○								兼1	
		ジェンダー論	1前		1		○								兼1	
		マナー・接遇	1前		1		○								兼1	
		社会学	1前	1			○								兼1	
		文化人類学	1後		1		○								兼1	
		生命倫理学	1後	1			○								兼1	
		発生生物学	1後	1			○								兼1	
		データサイエンス	1後	1			○								兼1	
		法情報リテラシー	1後		1		○								兼1	
		災害支援論Ⅰ	1後	1			○								兼1	
	災害支援論Ⅱ	2前		1		○								兼1		
	人間関係論	2前	1			○								兼1		
	アクセシビリティリーダー論	2後		1		○								兼1		
	運動障害・健康障害と心理	3前		1		○								兼1		
	健康 求への 追	スポーツ理論・実技Ⅰ	1前	1					○		2					※講義 共同
スポーツ理論・実技Ⅱ		1後	1					○		2					※講義 共同	
健康と食の科学		1後	1			○				1				兼1		
健康教育学		1後		1		○				1						
健康科学	1後		1		○				1							
国際 の理解 言語	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					○						兼1	※講義	
	英語コミュニケーションⅡ	1後		1				○						兼1	※講義	
	中国語	2前		1		○								兼1		
	韓国語	2前		1		○								兼1		
小計(25科目)			—	12	13	0		—		4	0	1	0	0	兼17	
基礎医学	人体構造学Ⅰ	1前	1			○				1						
	人体構造学Ⅱ	1後	1			○				1						
	生理学Ⅰ	1前	1			○								兼1		
	生理学Ⅱ	1後	1			○								兼1		
	人体構造学実習	1通	2					○		1						
	生理学実習	1後	1					○								
	運動学Ⅰ	2前	1			○				1						
	運動学Ⅱ	2後	1			○				1						
	運動生理学	2前	1			○				1						
	人間発達学	2前	1			○				1						
	運動学実習	2前	1					○				1	1		共同	
	神経解剖学	2前	1			○				1						
	小計(12科目)			—	13	0	0		—		5	0	1	1	0	兼1
臨床医学	病理学	2前	1			○				1					兼1	
	内科学	2前	1			○				1						
	整形外科	2前	1			○								兼1		
	神経内科学	2前	1			○								兼1		
	精神医学	2前	1			○								兼1		
	小児科学	2前	1			○								兼1		
	リハビリテーション医学	2後	1			○								兼1		
	スポーツ障害学	2後	1			○								兼1		
	老年医学	2後	1			○				1						
	薬理学	2後	1			○								兼1		
	救急救命学	2後	1			○								兼1		
画像診断学	2後	1			○								兼2	オムニバス		
リハビリテーション栄養学	3前	1			○								兼1			
予防医学	3後	1			○				1				兼1	オムニバス		
小計(14科目)			—	14	0	0		—		1	0	0	0	0	兼11	
保健 福祉 医療	リハビリテーション概論	1前	1			○				1						
	保健医療福祉論	1後	1			○								兼1		
	公衆衛生学	2後	1			○								兼1		
	地域包括ケアシステム論	3前	1			○								兼1		
小計(4科目)			—	4	0	0		—		1	0	0	0	0	兼3	
理学 療法 基礎 学	理学療法概論Ⅰ	1前	1			○				1						
	理学療法概論Ⅱ	1後	1			○				1						
	理学療法基礎セミナーⅠ	1前	1					○		1						
	理学療法基礎セミナーⅡ	1後	1					○		1						
	早期体験実習Ⅰ	1後	1							1		1				
	早期体験実習Ⅱ	2後	1							1		1				
小計(6科目)			—	6	0	0		—		2	0	2	0	0	0	
法医学 学 理 療	医療関係法規論	3後	1			○									兼1	
	理学療法管理学	4前	1			○				1						
小計(2科目)			—	2	0	0		—		1	0	0	0	0	兼1	
理学 療法 法 評 価 学	理学療法評価学Ⅰ	2前	1			○						1				
	理学療法評価学Ⅱ	2後	1			○						1				
	理学療法評価学実習Ⅰ	2前	1					○		1		1			共同	
	理学療法評価学実習Ⅱ	2後	1					○				2			共同	
	動作分析学	3前	1			○				1						
	動作分析学実習	3後	1					○		1					兼1	
小計(6科目)			—	6	0	0		—		3	0	3	0	0	兼1	

理学療法治療学	健康マネジメント論	2前		1		○									兼1	※演習
	日常生活活動学	2前	1			○			1							
	物理療法学	2後	1			○									兼1	
	運動療法学実習	3前	1			○		○	1		1					共同
	運動器障害系理学療法学Ⅰ	3前	1			○									兼1	
	運動器障害系理学療法学Ⅱ	3後	1			○									兼1	
	運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1			○		○							兼1	
	運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	3後	1			○		○							兼1	
	神経障害系理学療法学Ⅰ	3前	1			○				1						
	神経障害系理学療法学Ⅱ	3後	1			○				1						
	神経障害系理学療法学実習Ⅰ	3前	1			○		○		1						
	神経障害系理学療法学実習Ⅱ	3後	1			○		○		1						
	内部障害系理学療法学Ⅰ	3前	1			○					1				兼2	オムニバス
	内部障害系理学療法学Ⅱ	3後	1			○					1				兼2	オムニバス
	内部障害系理学療法学実習	3前	1			○		○			1				兼2	オムニバス
	発達障害系理学療法学	3前	1			○				1						
	発達障害系理学療法学実習	3前	1			○			1							
	義肢装具学	3前	1			○									兼1	
	運動障害・健康障害の自立活動論・指導法	3前		1		○									兼1	※演習
	老年期障害系理学療法学	3後	1			○						1				
老年期障害系理学療法学実習	3後	1			○			○			1			兼1	共同	
スポーツ障害系理学療法学	3後		1		○									兼1		
生活環境学	3後	1			○									兼1		
小計(23科目)	—	20	3	0	—	—	—	—	3	1	2	0	0	兼10		
地域理学療法学	集団支援論	3前		1		○									兼1	※演習
	サクセスフルエイジング論	3前		1		○									兼1	
	地域理学療法学	3前	1			○					1					
	バリアフリー論	3後	1			○									兼1	共同
	地域理学療法学実習	3前	1			○		○	1		1				兼2	オムニバス
小計(6科目)	—	3	3	0	—	—	—	1	0	1	0	0	0	兼4		
臨床学療法実習法	通所・訪問リハビリテーション実習	1後	1					臨	1		1					
	臨床実習Ⅰ	2後	1					臨	1		2					
	臨床実習Ⅱ	3後	4					臨	2		3	1				
	臨床実習Ⅲ	4前	7					臨	2	1	2	1				
	臨床実習Ⅳ	4後	7					臨	2	1	2	1				
小計(5科目)	—	20	0	0	—	—	—	3	1	3	1	0	0			
展開科目	地域創生論	1前	2			○									兼1	※演習
	世代間交流論	1前	2			○									兼1	※演習
	リーダーシップマネジメント論	2後	2			○									兼1	※演習
	高齢者健康づくり政策論	3後		2		○									兼1	※演習
	学校運営論	3後		2		○									兼2	オムニバス
	経営組織論	4前	2			○									兼1	※演習
	ヘルスケアマーケティング論	4前	2			○									兼1	※演習
	就労支援サービス論	4前	2			○									兼1	※演習
	教育相談	4前	2			○									兼1	※演習
	経営のための法律	4後	2			○									兼1	※演習
	財務会計論	4後	2			○									兼1	※演習
小計(11科目)	—	12	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼13		
総合科目	理学療法研究法演習Ⅰ	4前	2			○			5	1	1					
	理学療法研究法演習Ⅱ	4後	1			○			5	1	1					
	応用理学療法学演習	4後	1			○			1	1	1	1				共同
	小計(3科目)	—	4	0	0	—	—	—	5	1	1	1	0	0		
合計(117科目)		—	116	29	0	—	—	—	7	1	3	1	0	0	兼51	
学位又は称号	理学療法学士(専門職)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係(リハビリテーション関係)								
卒業・修了要件及び履修方法								授業期間等								
【卒業要件】 次により、必修科目116単位、選択科目18単位以上を修得すること。 1. 基礎科目20単位以上 (1) 必修科目12単位 (2) 選択科目8単位以上 2. 職業専門科目90単位以上 (1) 必修科目88単位 (2) 選択科目2単位以上 3. 展開科目20単位以上 (1) 必修科目12単位 (2) 選択科目8単位以上 4. 総合科目4単位 (1) 必修科目4単位								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要																	
(リハビリテーション学部作業療学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎科目	初年度セミナー	大学入門セミナー	1前	1			○			1	1				オムニバス		
	人間と生活及び社会の理解	社会人基礎力	1前	1	1		○			1	1				兼2	共同 オムニバス	
		教育学	1前	1			○										
		ジェンダー論	1前	1	1		○				1						
		マナー接遇	1前	1	1		○										
		社会学	1前	1			○										
		文化人類学	1後	1	1		○				1						
		生命倫理学	1後	1			○										
		発生生物学	1後	1			○										
		データサイエンス	1後	1			○										
		法情報リテラシー	1後	1	1		○										
	災害支援論Ⅰ	1後	1			○											
	災害支援論Ⅱ	2前	1	1		○											
	人間関係論	2前	1			○			1								
	アクセシビリティリーダー論	2後	1	1		○											
	運動障害・健康障害と心理	3前	1	1		○											
健康への追求	スポーツ理論・実技Ⅰ	1前	1					○							兼2	※講義 共同	
	スポーツ理論・実技Ⅱ	1後	1					○							兼2	※講義 共同	
	健康と食の科学	1後	1			○											
	健康教育学	1後	1	1		○											
健康科学	1後	1	1		○												
国際言語理解	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					○								兼1	※講義
	英語コミュニケーションⅡ	1後	1	1				○								兼1	※講義
	中国語	2前	1	1				○								兼1	
	韓国語	2前	1	1				○								兼1	
	小計(25科目)	—	12	13	0		—		3	2	0	0	0		兼16		
基礎医学	人体構造学Ⅰ	1前	1			○										兼1	
	人体構造学Ⅱ	1後	1			○										兼1	
	生理学Ⅰ	1前	1			○										兼1	
	生理学Ⅱ	1後	1			○										兼1	
	人体構造学実習	1通	2					○								兼1	
	生理学実習	1後	1					○								兼1	
	運動学Ⅰ	2前	1			○			1							兼1	
	運動学Ⅱ	2後	1			○			1							兼1	
	運動生理学	2前	1			○										兼1	
	人間発達学	2前	1			○										兼1	
	運動学実習	2前	1					○		1			1			兼1	
	神経解剖学	2前	1			○										兼1	
		小計(12科目)	—	13	0	0		—		1	1	0	1	0		兼4	
臨床医学	病理学	2前	1			○										兼1	
	内科学	2前	1			○										兼1	
	整形外科	2前	1			○										兼1	
	神経内科学	2前	1			○										兼1	
	精神医学	2前	1			○										兼1	
	小児科学	2前	1			○										兼1	
	リハビリテーション医学	2後	1			○										兼1	
	スポーツ障害学	2後	1			○										兼1	
	老年医学	2後	1			○										兼1	
	薬理学	2後	1			○										兼1	
	救急救命学	2後	1			○										兼1	
	画像診断学	2後	1			○										兼2	オムニバス
リハビリテーション栄養学	3前	1			○										兼1		
予防医学	3後	1			○				1						兼1	オムニバス	
	小計(14科目)	—	14	0	0		—		1	0	0	0	0		兼11		
保健医療福祉	リハビリテーション概論	1前	1			○			1								
	保健医療福祉論	1後	1			○										兼1	
	公衆衛生学	2後	1			○										兼1	
	地域包括ケアシステム論	3前	1			○										兼1	
	小計(4科目)	—	4	0	0		—		1	0	0	0	0		兼3		
作業療法基礎	作業療法概論	1前	1			○			1							兼1	
	作業療法基礎セミナーⅠ	1前	1				○		1		1	1				共同	
	作業療法基礎セミナーⅡ	1後	1				○		1	1		1				共同	
	早期体験実習Ⅰ	1後	1					○	1	1		1					
	早期体験実習Ⅱ	2後	1					○	1	1		1					
	小計(5科目)	—	5	0	0		—		2	2	1	2	0		兼1		
作業療法学	医療関係法規論	3後	1			○										兼1	
	作業療法管理学	4前	1			○			1								
		小計(2科目)	—	2	0	0		—		1	0	0	0	0		兼1	
作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	2前	1			○			1								
	作業療法評価学Ⅱ	2後	1			○			1								
	作業療法評価学実習Ⅰ	2前	1					○			1	1				共同	
	作業療法評価学実習Ⅱ	2後	1					○		1		1				共同	
	活動分析学	3前	1			○			1								
	小計(5科目)	—	5	0	0		—		2	1	1	2	0	0			

作業療法治療学	健康マネジメント論	2前		1		○								兼1	※演習	
	日常生活活動学	2前	1			○			1							
	日常生活活動学実習	2後	1					○	1		1				共同	
	生活環境学	2前	1			○			1							
	生活環境学実習	2後	1					○	1		1				共同	
	身体障害作業治療学	3前	1			○				1						
	身体障害作業治療学実習	3後	1					○			1				共同	
	精神障害作業治療学	3前	1			○								兼1		
	精神障害作業治療学実習	3後	1					○						兼1		
	発達障害作業治療学	3前	1			○								兼1		
	発達障害作業治療学実習	3後	1					○						兼1		
	老年期障害作業治療学	3前	1			○					1				共同	
	老年期障害作業治療学実習	3後	1					○			1	1			オムニバス	
	高次脳機能障害作業治療学	3前	1			○			1			1		兼1		
高次脳機能障害作業治療学実習	3後	1					○	2					兼1	共同		
義肢装具学	3前	1			○								兼1			
義肢装具学実習	3後	1					○						兼1			
運動障害・健康障害の自立活動論・指導法	3前		1			○							兼1	※演習		
リハビリテーション工学	3後	1				○							兼1			
職業リハビリテーション学	3前	1				○							兼1			
カウンセリング論	3後	1				○							兼1			
小計(21科目)	—	—	19	2	0	—	—	—	3	1	1	3	0	兼7		
地域作業療法学	サクセスフルエイジング論	3前		1		○								兼1	※演習	
	地域作業療法学	3前	1			○				1						
	バリアフリー論	3後	1					○								
	地域作業療法学実習Ⅰ	3前	1					○			1	1			共同	
	地域作業療法学実習Ⅱ	3後	1					○			1	1			共同	
	子ども支援学	4前		1		○			1					兼1	オムニバス	
小計(6科目)	—	—	4	2	0	—	—	—	1	2	1	2	0	0		
臨床療養実習法	通所・訪問リハビリテーション実習	1後	1								1					
	臨床実習Ⅰ	2後	1						臨	1	1		1			
	臨床実習Ⅱ	3後	4						臨	1	1		2			
	臨床実習Ⅲ	4前	8						臨	1	1		3			
	臨床実習Ⅳ	4後	8						臨	1		1	3			
小計(5科目)	—	—	22	0	0	—	—	—	2	1	1	3	0	0		
展開科目	作業療法展開科目	地域創生論	1前	2			○								兼1	※演習
		世代間交流論	1前	2			○								兼1	※演習
		リーダーシップマネジメント論	2後	2			○								兼1	※演習
		体力測定実習	3前		2				○			1		1		共同
		高齢者健康づくり政策論	3後		2				○						兼1	
		学校運営論	3後		2				○						兼2	オムニバス
		経営組織論	4前	2					○						兼1	※演習
		ヘルスケアマーケティング論	4前		2				○						兼1	※演習
		生活・福祉基盤論	4前		2				○						兼1	※演習
		教育相談	4前		2				○						兼1	※演習
		経営のための法律	4後	2					○						兼1	※演習
		財務会計論	4後	2					○						兼1	※演習
小計(12科目)	—	—	12	12	0	—	—	—	0	1	0	1	0	兼12		
総合科目	学応用療法	作業療法研究法演習Ⅰ	4前	2				○		3	3	1	1			
		作業療法研究法演習Ⅱ	4後	1				○		3	3	1	1			
		応用作業療法学演習	4後	1				○		1	1		1			共同
		小計(3科目)	—	—	4	0	0	—	—	3	3	1	2	0	0	
合計(114科目)		—	—	116	29	0	—	—	5	3	1	3	0	兼53		
学位又は称号		作業療法学士(専門職)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(リハビリテーション関係)								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等							
【卒業要件】 次により、必修科目116単位、選択科目18単位以上を修得すること。 1. 基礎科目20単位以上 (1) 必修科目12単位 (2) 選択科目8単位以上 2. 職業専門科目90単位以上 (1) 必修科目88単位 (2) 選択科目2単位以上 3. 展開科目20単位以上 (1) 必修科目12単位 (2) 選択科目8単位以上 4. 総合科目4単位 (1) 必修科目4単位									1学年の学期区分			2学期				
									1学期の授業期間			15週				
									1時限の授業時間			90分				

専門職大学等における実験、実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧							
(リハビリテーション学部理学療法学科)							
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	臨地実務実習に代えて連携実務演習等（実験、実習又は実技によるものに限る。）を修得させる理由及び見込まれる教育効果	
		必修	選択	自由			
実験、実習又は実技による授業科目	基礎科目	スポーツ理論・実技Ⅰ	1			実技	
	スポーツ理論・実技Ⅱ	1			実技		
	職業専門科目	人体構造学実習	2			実習	
		生理学実習	1			実習	
		運動学実習	1			実習	
		早期体験実習Ⅰ	1			実習	
		早期体験実習Ⅱ	1			実習	
		理学療法評価学実習Ⅰ	1			実習	
		理学療法評価学実習Ⅱ	1			実習	
		動作分析学実習	1			実習	
		運動療法学実習	1			実習	
		運動器障害系理学療法学実習Ⅰ	1			実習	
		運動器障害系理学療法学実習Ⅱ	1			実習	
		神経障害系理学療法学実習Ⅰ	1			実習	
		神経障害系理学療法学実習Ⅱ	1			実習	
		内部障害系理学療法学実習	1			実習	
		発達障害系理学療法学実習	1			実習	
		老年期障害系理学療法学実習	1			実習	
		地域理学療法学実習	1			実習	
		通所・訪問リハビリテーション実習	1			実習 [臨]	
	臨床実習Ⅰ	1			実習 [臨]		
	臨床実習Ⅱ	4			実習 [臨]		
	臨床実習Ⅲ	7			実習 [臨]		
	臨床実習Ⅳ	7			実習 [臨]		
展開科目	該当なし						
総合科目	該当なし						
小計（24科目（0科目））		40	0	0			
うち卒業・修了に必要な実習等単位数		40	0	—			
うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—			
演習による実習等代替授業科目	科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	実験、実習又は実技に代えて演習による授業科目を修得させる事由及び見込まれる教育効果
			必修	選択	自由		
	基礎科目	該当なし					
	職業専門科目	該当なし					
	展開科目	該当なし					
	総合科目	該当なし					
	小計（0科目（0科目））		0	0	0		
	うち卒業・修了に必要な演習代替単位数		0	0	—		
	うち卒業・修了に必要な連携実務演習等単位数		0	0	—		
	合計（24科目（0科目））		40	0	0		
	うち卒業・修了に必要な実習等又は演習単位数		40	0	—		
	うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		20	0	—		

専門職大学等における実験、実習又は実技による授業科目並びにこれに代替する演習による授業科目一覧						
(リハビリテーション学部作業療法学科)						
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	臨地実務実習に代えて連携実務演習等（実験、実習又は実技によるものに限る。）を修得させる理由及び見込まれる教育効果
		必修	選択	自由		
基礎科目	スポーツ理論・実技Ⅰ	1			実技	
	スポーツ理論・実技Ⅱ	1			実技	
実験、実習又は実技による授業科目	職業専門科目					
	人体構造学実習	2			実習	
	生理学実習	1			実習	
	運動学実習	1			実習	
	早期体験実習Ⅰ	1			実習	
	早期体験実習Ⅱ	1			実習	
	作業療法評価学実習Ⅰ	1			実習	
	作業療法評価学実習Ⅱ	1			実習	
	日常生活活動学実習	1			実習	
	生活環境学実習	1			実習	
	身体障害作業治療学実習	1			実習	
	精神障害作業治療学実習	1			実習	
	発達障害作業治療学実習	1			実習	
	老年期障害作業治療学実習	1			実習	
	高次脳機能障害作業治療学実習	1			実習	
	義肢装具学実習	1			実習	
	地域作業療法実習Ⅰ	1			実習	
	地域作業療法実習Ⅱ	1			実習	
	通所・訪問リハビリテーション実習	1			実習 [臨]	
	臨床実習Ⅰ	1			実習 [臨]	
臨床実習Ⅱ	4			実習 [臨]		
臨床実習Ⅲ	8			実習 [臨]		
臨床実習Ⅳ	8			実習 [臨]		
展開科目	体力測定実習		2		実習	
総合科目	該当なし					
小計（25科目（0科目））		42	2	0		
うち卒業・修了に必要な実習等単位数		42	0	—		
うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		22	0	—		
科目区分	授業科目の名称	単位数			授業形態 [臨/連]	実験、実習又は実技に代えて演習による授業科目を修得させる事由及び見込まれる教育効果
		必修	選択	自由		
演習による実習等代替授業科目	基礎科目					
	職業専門科目					
	展開科目					
	総合科目					
小計（0科目（0科目））		0	0	0		
うち卒業・修了に必要な演習代替単位数		0	0	—		
うち卒業・修了に必要な連携実務演習等単位数		0	0	—		
合計（25科目（0科目））		42	2	0		
うち卒業・修了に必要な実習等又は演習単位数		42	0	—		
うち卒業・修了に必要な臨地実務実習等単位数		22	0	—		

授 業 科 目 の 概 要			
（リハビリテーション学部理学療法学科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎 科目	初年度 セミナー 大学入門セミナー	<p>大学入門セミナーは、学生が大学での生活と主体的な学修活動を始めるにあたっての基本的知識や技能を修得することである。大学の教育目標や学部、学科の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解することとする。具体的には、大学における学習方法、社会秩序のあり方、倫理と道徳を学修し、理学療法学科の教育プログラムの情報を得ながら倫理観を持ち、他者との協働作業を通じて理解していく。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（<input type="checkbox"/>2 中 徹／4回）</p> <p>大学の教育目標や学部、学科の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について学修する。</p> <p>（<input type="checkbox"/>4 縄井 清志／4回）</p> <p>理学療法学科の教育プログラムの情報を得ながら社会秩序のあり方、倫理と道徳を持ち、他者との協働作業を通じて理解しながら学修していく。</p>	オムニバス方式
基礎 科目	人間と生活及び社会の理解 社会人基礎力	<p>社会人基礎力は、様々な人の価値観を尊重しながら、主体的な行動ができるために必要な能力である。本講義では、社会人基礎力を身に付けるための1つのツールとして「7つの習慣」を用いて行う。連続する段階を踏んで、個人の効果性、人間関係の効果性を高めていくための統合的なアプローチについて紹介していく。</p>	
基礎 科目	人間と生活及び社会の理解 教育学	<p>医療従事者の日々の実践や活動にとって不可欠となる「教育」の概念や現代的な実践について考えるための知識を取り扱う。</p> <p>（オムニバス方式／全8回）</p> <p>（15. 長 創一朗／4回）</p> <p>教育および教育学の基本的な概念や議論を概説し、また共生を実現するための教育についても説明する。</p> <p>（16. 小山田 建太／4回）</p> <p>現代の教育問題ならびにそれらを克服するための教育的営為について、各テーマごとに概説する。</p>	オムニバス方式
基礎 科目	人間と生活及び社会の理解 ジェンダー論	<p>現代社会をジェンダーの視点から捉えなおし、所与の物としてとらえてきた事象に潜むジェンダー問題について検討する。また、女性あるいは男性として生まれ育つことが、公私の領域でどのように人生を規定していくかを学ぶと同時に、「性の二分法」では捉えきれない性の多様性について学ぶ。さらに「性秩序」の解体と性の多様性が、今後どのような社会へと私たちを誘う（いざなう）のか、その行く末を展望する。</p>	
基礎 科目	人間と生活及び社会の理解 マナー接遇	<p>理学療法士・作業療法士として、さまざまな領域で高い専門性を持ち活躍することが求められる中、他者理解と他者からの協力が必要不可欠となる。知識や技術に加えより良い人間関係を築くための原則や患者心理の理解など、個人差を十分理解して接していくことを理解し、社会人として、また医療従事者として対象者を支えるために必要なことや、相手に配慮した言動等について、敬語の使い分けや人に与える印象、お礼状の書き方の実践等などから学んでいく。</p>	
基礎 科目	人間と生活及び社会の理解 社会学	<p>社会学の基礎知識を題材にして、①日常生活における社会の経験を振り返り、その経験を生み出している社会の構造を知ることで、②人と人とのつながりである社会関係を起点に、社会集団（まとまり）、社会規範（きまり）、役割演技（ふるまい）など、社会学の基礎概念を使って「人生の舞台構造」を分析する視点を学ぶとともに、③個人と社会との接点・関わりを理解し、生活の成り立ちへの関心を高める。</p>	

基礎科目	人間と生活及び社会の理解	文化人類学	フィールドワークに基づき、様々な民族の文化を研究することを通して、人間とは何かを研究する学問である文化人類学の研究領域と理論を理解した上で、世界各地の人々の日常生活の営みを題材に、人々の日文化の多様性と異文化理解の重要性について学ぶ。特に、「家族」や「医療福祉」をテーマに、より豊かな「生」を実現するための方法について考える。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	生命倫理学	ヒトも生き物の一員であるという観点から、生き物の「共通性」「多様性」「共生」を理解した上で、いのちを守るための原則（生命の尊厳や生命の質）、生殖補助技術の進歩とそれがもたらす問題、安楽死と尊厳死の問題などについて、具体的な実例をあげ共に考え議論を深める。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	発生生物学	たった1つの細胞である受精卵から、複雑な成体の体が作られる過程を発生と呼ぶ。この発生過程を進めるためには、多くの遺伝子が、時間を追って順番に、整然と働く必要がある。この授業では、発生を進める基本原理を学ぶとともに、次世代に生命をつなげることができる唯一の細胞である生殖細胞が作られる過程に焦点を当て、生殖細胞形成に関与する遺伝子の動物間での共通性と多様性に関して概説する。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	データサイエンス	データ分析基本プロセス、収集、加工、可視化、解釈において、社会でどのような方法が用いられているのか具体的な実例に対して紹介を行う。また、機械学習/AI、データ分析においてツール任せにして陥りやすい落とし穴について紹介を行い、データ活用時に人間が気をつけなければならない点の理解を深める。 時間が許せば、データ分析に用いられるPython/Rなどのプログラミング言語やその他分析ツールの紹介や演習を行うことも行いたい。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	法情報リテラシー	法・法律は、日常生活に大きなかわりを持っている。この講義は、受講者が法学を専門としていない、あるいは法学を学んだことのない学生の皆さんであることを前提として、法学の基礎になる知識や技術、ものの考え方を身につけ、具体的にイメージをもってもらうことをその内容とする。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	災害支援論Ⅰ	災害が起きたことによって生じてくる生活課題への支援について総合的に学び、災害支援のあり方や防災・減災に向けて私たちは何ができるのかを考えていく。また、災害時後に限らず、人や地域を支えていくことの意味を問い直していきながら、災害大国ともいわれるわが国で生活を送る上で見つめるべきことを探っていく(災害支援についての概念、総論について説明していく)。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	災害支援論Ⅱ	災害時の支援の方法について、災害後の緊急救援時における対人援助の専門職による実践の様子を知り、何が求められるのかを考える。避難所から仮設住宅での生活の変容を理解し、支援のあり方考える。具体的に過去の災害における支援の事例を振り返り、私たちの考え方にどのように影響および変化を及ぼしたのかを知り、社会人として必要な支援方法について学修する。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	人間関係論	社会心理学、特に対人心理学の基礎、人間関係を自分の課題としてとらえて対処していく考え方、現代社会における人間関係上の病理、患者との人間関係を円滑に進めるための意識、親、子ども、夫婦の関係を正常に保つための知識、恋愛や友情の理論、高齢者や障害がある人との人間関係を適正に保つための知識を教授する。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	アクセシビリティリーダー論	障害のある人々が包摂された社会を実現するために、多様な障害の理解や支援に関する幅広い講義を行う。具体的には、今日的な障害の捉え方や多様な障害の理解、社会的障壁の考え方、障害のある人に役立つ支援技術、諸外国と日本における支援の比較など、最新の話題を通して、障害のある人にとってのアクセシビリティとは、また、多様な背景をもつ人々が共生することのできる社会とはどのような社会なのかについて概説する。	

基礎科目	人間と生活及び社会の理解	運動障害・健康障害と心理	肢体不自由教育における歴史的経緯、心理や情緒の発達等に関する基礎的な知識を理解するとともに、学校現場で直面している心理的な問題に迫る。また、入院治療中、不登校、いじめ、虐待等の児童生徒における心理状態について、事例を通してながら支援方法を検討するとともに学校で実践されているグループワークアプローチについての基礎的理解を深め、実践方法について知る。	
基礎科目	健康への追求	スポーツ理論・実技Ⅰ	スポーツの歴史・文化や身体機能と運動メカニズムを学修し、必要な健康・体力づくりの知識を理解する。さらに、スポーツを通して自己の体力と健康状態を知り、日常生活の中で積極的に身体活動、スポーツやレクリエーション活動に参加できるようになり、周囲の人びとも身体活動等に参加を促していけるようになることを目標とする。学生のスポーツ歴や体力レベルの違いにより、一律に講義を計画通りに進めることが困難である場合は、別途内容を検討し、スポーツを楽しむことを学ぶことを重要として、授業を進めていく。	講義4時間 実習26時間 共同
基礎科目	健康への追求	スポーツ理論・実技Ⅱ	体力と健康の関係についての理論背景を学修し、体力の向上をすることで健康が維持できることを自己の運動から経験し、運動・スポーツを日常生活の中で習慣化できるようにしていく。さらに、その経験を周囲の人々に共感できるような環境を整備し、様々な人の生活を支援できることを意識して学修する。学生のスポーツ歴や体力レベルの違いにより、一律に講義を計画通りに進めることが困難である場合は、別途内容を検討し、スポーツを楽しむことを学ぶことを重要として、授業を進めていく。	講義4時間 実習26時間 共同
基礎科目	健康への追求	健康と食の科学	日本は平均寿命が男女ともに80歳を超え伸び続けているが、健康寿命と寿命の間にはまだに約10年のギャップがある。最先端の医療を駆使しても、多くの加齢性疾患の治療は困難であるが、予防することは可能である。本講義では、日本人が伝統的に大切にしてきた医食同源という食による疾患予防の文化をアップデートする。これまでに人類が蓄積してきた食に関する膨大な知恵に加えて、最先端科学による明確なエビデンスに基づいた健康に役立つ「食」に関して学ぶことで、毎日の生活の中で実践できる知識を身につけることを目的とする。	
基礎科目	健康への追求	健康教育学	健康教育は健康の維持、増進、疾病の予防、治療、安全教育、性感染症予防教育のために、科学的根拠に基づきながら行動変容をいかに起こさせるかという分野である。本講義の目標は、健康行動のモデルや健康教育の手段、手順が説明できるようになることである。また、多彩な場面(家庭、職場等)での健康教育とはどのようなものであるかについても説明できるようになることとする。	
基礎科目	健康への追求	健康科学	学生生活や社会人生活において、健康に日常生活を送るためには、適度な運動、栄養、休養を送ることが重要である。健康活動するために科学的知見に基づき学修することが必要である。本講義では、前述した内容を分かりやすく解説し、健康の重要性、健康に対する意識やメカニズムを自己のみならず他者にも説明できるように学修する。	
基礎科目	国際言語の理解	英語コミュニケーションⅠ	基礎的な文法と平易で短い会話表現の習得を目的としてはじめの時間は、文法等の確認による講義があるが、教員－学生間や学生間で会話を中心に演習していく。英会話を楽しく日常生活でも簡単に話せるようにしていくことを目標とする。	講義2時間 演習13時間
基礎科目	国際言語の理解	英語コミュニケーションⅡ	基本的な文法と日常生活の実際場面を想定して英会話を演習方式で進めていく。具体的には、病院、公共交通機関、ホテル等における会話の仕方について学修する。英会話を楽しんでいけるよう主体的に取り組めるよう配慮していく。	講義2時間 演習13時間

基礎科目	国際言語の理解	中国語	本科目では、中国語（標準語）の基礎発音や会話をグループワークの形式で読み進めながら、基礎的な日常コミュニケーションや読解力の習得を目指す。具体的には漢字とその発音の練習、初級語彙、単語、文法、日常表現について、初めて中国語に接する学生にも楽しめるように習得できるよう基礎レベルの知識を学ぶ。また、様々な日常の情景会話を再現して、比較的簡単な会話練習を通して、初期応用中国語のコミュニケーション力を高める。	
基礎科目	国際言語の理解	韓国語	韓国語の入門クラスとして、韓国語の文字と発音を習得し、文法を理解しながら簡単な作文や読解を練習する。挨拶や自己紹介など基礎的なコミュニケーションスキルを身につけるとともに、シチュエーションに合わせた表現を学び会話力を高める。また、韓国映画やドラマなどのメディアを活用し、韓国社会や文化への理解を深める。	
職業専門科目	基礎医学	人体構造学Ⅰ	人体の骨格とその連結の構造と働き、筋の起始・停止、作用（関節の運動）、脊髄神経の構成、分布と機能、感覚麻痺、運動麻痺の機序について学ぶ。特に、日常の臨床に重要な機能に重点をおいて学ぶ。	
職業専門科目	基礎医学	人体構造学Ⅱ	脳神経・自律神経の構成と機能について学習する。内臓器の構造と機能がどのような組織や細胞の微細構造に基づいているかを理解する。また、細胞の機能と疾患との関係を理解する。	
職業専門科目	基礎医学	生理学Ⅰ	人体の機能(特に運動機能との関わり)についてメカニズムを踏まえて理解していく学問である。Ⅰでは、動物機能として中枢神経系、末梢神経神経、筋(筋の種類、タイプ、運動単位等を含む)、感覚器(筋紡錘、触覚、特殊感覚等)の構造と機能について解説していく。	
職業専門科目	基礎医学	生理学Ⅱ	人体の機能(特に運動機能との関わり)についてメカニズムを踏まえて理解していく学問である。Ⅱでは、植物機能として呼吸(肺容量、換気障害)、循環(血圧、血液の役割、心臓の作用)、代謝、ホルモン、消化(排便、口腔含む)、泌尿について基本的事項から解説していく。	
職業専門科目	基礎医学	人体構造学実習	人体の構造を骨格模型、骨格筋模型、神経分布の模型で立体的、総合的に理解する。実地に役立つように骨格、骨の基本的部位を体表から触診し、生体における位置を知る。関節の運動を行うことで、生体における筋の所在を触診する。主要な神経の所在と走行を体表から触診し、その働きを理解し考える。	
職業専門科目	基礎医学	生理学実習	人における生理的な計測方法を実習で学ぶ。また何らかの刺激による生理的変化についての実習を行う。実習で得られたデータを整理分析し、表やグラフへの表示について学ぶ。これらの生理的変化の仕組みについて考察する。	
職業専門科目	基礎医学	運動学Ⅰ	人間の身体運動を理解するために、現象としての身体運動を力学、解剖学と生理学へ還元して説明する。運動を科学的根拠の中から説明できるようにするために運動の基礎として関節ごとに概説していく。各関節がどのようなメカニズムで運動を成立させるのかを学修していく。さらに、各関節がどのような関係性を持って運動を行っているかについても学修する。	

職業専門科目	基礎医学	運動学Ⅱ	姿勢、歩行、走行等についての運動学的理論背景を学修し、理解を深め、第3者に説明できるようにする。臨床における問題を発見できるように運動学的理論においては経験則的な視点だけではなく、科学的根拠を基に理解することに徹していく。また、運動発達、運動学習理論についても説明し、同様に科学的根拠に基づく理論について深く追及する。	
職業専門科目	基礎医学	運動生理学	生体における運動時の反応や運動に対する適応機序(呼吸、循環器、骨格筋、神経、血液、内分泌、エネルギー代謝など)について各回テーマを持って学修し、運動の機能的、構造的適応について理解を深めていく。健康増進を目的とした、身体活動を科学的根拠に基づいて実践するために必要な知識を身に付けることを目標とする。	
職業専門科目	基礎医学	人間発達学	生涯にわたる人間の身体・運動・認知・心理・社会の諸側面にわたって「発達」の現象と時系列におけるその変容を学ぶ。併せて、それらの理解の中から「発達」の法則性や変容が生じるメカニズム、発達理論の特徴について学ぶ。	
職業専門科目	基礎医学	運動学実習	骨と骨指標を効果的に触診することは、筋触診に進む前に到達しなければならない。まずはじめに骨、骨指標の触診法の技術について説明する。次いで、骨格筋の触診について説明し、それぞれの筋について触診手段を段階的に理解した上で容易に学習出来るよう、各々の手順の科学的根拠についても概説する。さらに、各筋におけるトリガーポイントも説明する。	共同
職業専門科目	基礎医学	神経解剖学	中枢神経系はどのような部位から構成されているか、どのような働きをするのかについて学ぶ。とくに、神経系の機能障害を理解するための基礎として、どのような神経回路に基づいてその機能が発現されるかについて学ぶ。	
職業専門科目	臨床医学	病理学	病理学は基礎医学と臨床医学との結びつける学際領域の学問である。次の5つを中心として教えること ①病理学において数多くの医学専門用語を覚えさせることや病的現象を理解させること。②総論において病理学の基本知識や疾患の共通点をしっかり把握させること。③疾患の成り立ちを理解させること。④各論においてそれぞれの病気を理解し、病気の成り立ちや形成の原因もしっかり把握させること。⑤各疾患の病理所見や臨床診療の要点との関連性などを把握させることとする。	
職業専門科目	臨床医学	内科学	本科目では、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、肝・胆・膵・腹膜疾患、血液疾患、内分泌・代謝疾患、膠原病、脳・神経疾患に関わる病態生理、症状、検査所見、治療法について学修していく。また、リハビリテーションを行う上で必要なリスクについても学修し、理学療法士として科学的根拠に基づきながら臨床上の課題を発見できるよう支援していく。	
職業専門科目	臨床医学	整形外科	整形外科疾患についての検査、徴候、治療法について解説していく。具体的には、先天性疾患、骨折・脱臼(合併症含む)、切断、変形、靭帯損傷等の疾患について四肢、体幹から順次学修していく。さらに、整形外科医からの視点からリハビリテーション専門職への期待等についても説明していく。	
職業専門科目	臨床医学	神経内科学	神経系は運動・感覚・内部環境の自律に関わり、リハビリテーションの対象となる主要な障害の要因ともなる領域です。神経内科学では、神経系の障害がどのような症候として現れるのか、運動・感覚や、意識、記憶・認知機能、失語、注意障害、失認・失行、性格行動障害を含む高次脳機能障害など網羅的に把握し、また、脳血管障害、パーキンソン病など変性疾患、あるいは、筋ジストロフィー、腫瘍、外傷、感染など疾患を系統ごとに学習し、神経内科学的な診方や、考え方・洞察の基本を学ぶ。	

職業専門科目	臨床医学	精神医学	リハビリ専門職として必要な精神医学の基本的事項を概説する。具体的には、精神医学の概念と歴史、精神障害の成因や分類、診断基準と基本的な精神症状、疾患ごとの経過と治療等に関する知識を習得する。さらに、医療従事者として精神科領域で活動する際に求められる、こころの問題を「生物心理社会的(bio-psycho-social)」な視点で考える姿勢や、精神医学用語、最新の精神医学に関連する情報の見つけ方等についても触れ、習得した知識を臨床実践に活かす力を養成することを目的とする。	
職業専門科目	臨床医学	小児科学	医療分野における高度職業人として身につけるべき、小児科学について概説する。具体的には小児期の成長・発達、小児期に見られる主な疾患（アレルギー疾患、感染症、循環器疾患、消化器疾患、内分泌疾患、代謝疾患、呼吸器疾患、腎泌尿器疾患、神経疾患）などである。また、リハビリテーションの対象となる脳性麻痺や知的障害、発達障害、重症心身障害などを含め、小児科学における今日的課題の考察も含めて学習する。	
職業専門科目	臨床医学	リハビリテーション医学	基礎医学で学修した知識を基にして、リハビリテーションの対象となる各疾患(脳疾患、骨関節疾患、外傷、小児疾患、神経筋疾患、高齢者に多い疾患等)の障害像、リハビリテーションとの関わりを学ぶ。各種障害の評価、治療について科学的根拠に基づきながら説明できるようになることを学修目標とする。	
職業専門科目	臨床医学	スポーツ障害学	スポーツ活動に関連する障害に対して、リハビリテーション職が果たす役割は大きい。スポーツ現場から医療機関内まで、その時の立場に応じて様々な対応が求められる。 本講義では、対応の根拠・思考の土台となるべき知識を学ぶ。「スポーツ障害」は種目、ポジション、年齢、性別、などによってそれぞれ特徴があり、疾患は多岐にわたる。講義中に紹介する疾患の知識を土台として、現場に通用する思考を養う。	
職業専門科目	臨床医学	老年医学	本講義では、超高齢社会となる我が国において老化・加齢とほどのようなメカニズムになるかを学修し、老年期に多い疾患について科学的根拠に基づき、病態生理ならびに特徴の知識を学修していく。さらに、老年期の対象者についての理学療法士の役割についても老年期疾患の特徴から検討する。	
職業専門科目	臨床医学	薬理学	授業を通じて、正常もしくは病的状態にある生体が薬物に対してどのような反応を示すかを理解する。薬物が作用する仕組みと臨床応用、さらには、副作用についての知識を得る。医療目的で用いられる薬剤は数も非常に多く、作用は個々で異なるため、限られた時間内で効率的なアウトカムを得るべく、薬理作用で分類・整理した代表的な薬物について学ぶ。	
職業専門科目	臨床医学	救急救命学	不慮の事故や突然の疾病は、海水浴、登山、競技中、遠征のための移動中など、時と場所に関係なく発生する。発生時の正しい対応が救命につながり、重篤な状態に移行することを防ぐ。したがって医療福祉にたずさわる人達は、緊急の事態を常に予想し、素早く適切な処置ができるような知識と技術とを身につけておかなければならないため、基本的知識から応急処置の仕方についても学修していく。	
職業専門科目	臨床医学	画像診断学	各種撮影法の基本原理と画像診断の理論を学修する。画像に関する内容は、胸部・腹部疾患、脳血管障害、脊椎・脊髄疾患、上肢・下肢疾患の内容とする。 (オムニバス方式／全15回) (30. 平林 宏之／7回) 脊椎・脊髄疾患、上肢・下肢の運動器疾患に関する画像診断について学修する。 (31. 牧山 康志／8回) 総論として基本原理と画像診断の理論、胸部・腹部疾患、脳血管障害の内容について学修する。	オムニバス方式

職業専門科目	臨床医学	リハビリテーション 栄養学	栄養スクリーニング、アセスメント、栄養ケアプラン、モニタリングおよび評価、教育などの栄養管理について学習する。また、代謝・内分泌疾患、腎疾患、循環器疾患、消化器疾患等の疾患や病態に応じた栄養療法についての理解を深める。	
職業専門科目	臨床医学	予防医学	予防の概念、健康の概念について情報を整理し、生活習慣病を予防するためにはどのようなことが必要であるかを解説していく。 (オムニバス方式／全15回) (1 柳 久子／8回) 健康及び健康管理の概念、生活習慣病の予防、介護予防などについて担当する。 (14. 柳 健一／7回) 産業領域の視点から予防医学を学修し、リハビリテーションの専門性を活かしながら対象者の健康を管理する視点について検討する。	オムニバス方式
職業専門科目	保健医療福祉論	リハビリテーション概論	病気とは何か、障害とは、また、障害者の権利に関する条約、高齢者等の擁護などの視点からリハビリテーションの概念、定義、リハビリテーション医療の流れ、リハビリテーション関連職種専門分野、役割、あるべき姿、現状の課題などを教授し、リハビリテーション領域での理学療法士の専門性について科学的根拠に基づきながら検討していき、自らの役割を考える基盤を形成していく。	
職業専門科目	保健医療福祉論	保健医療福祉論	地域包括ケアシステムを中心に、①医療から介護、地域へという時代の流れを理解し(健康転換と医療の福祉化)、②超高齢社会における医療と介護の連携(多職種連携)や、③リハビリテーションの理念(地域包括ケアとリハビリテーション)について知識を深めるとともに、④事例調査を通じて知識の実際的な展開を理解することにより(課題研究)、⑤医療福祉の現場での仕事において基盤となる「包括」的な視点を学ぶ。	
職業専門科目	保健医療福祉論	公衆衛生学	公衆衛生学は、国民の健康増進や疾病予防を目的として、社会集団に対する取組や施策を検討する学問である。本授業では、集団の健康を理解するための方法論を解説するとともに、わが国における健康問題の現状と課題、保健医療福祉制度について概説する。	
職業専門科目	保健医療福祉論	地域包括ケアシステム論	日本の人口構造の変化、疾病構造の変化など社会的ニーズの変化や介護保険法、障害者総合支援法など制度の仕組みを学ぶ。地域で生活する療養者の模擬事例を用い、グループ討議により専門職として多職種連携について考察する。さらに、地域包括ケアシステムが推進されるに至った社会背景および関係法規と地域包括ケアシステムのしくみを学修する。また、地域で活躍する専門職である理学療法士・作業療法士の立場から地域包括ケアシステムに参画していく方向性を考察する。	
職業専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅰ	理学療法の基本として、倫理・哲学、歴史、法律、学問体系、研究手法、管理、職域などについて学修する。日本における理学療法の現状などの様々な視点から情報を得て、将来どのような理学療法士として社会に貢献できるかについて明確にできるよう説明していく。理学療法(学)としての学問を科学的根拠に基づいて整理できるようにしていく。	
職業専門科目	基礎理学療法学	理学療法概論Ⅱ	理学療法の基本として、職域、適正、教育課程、心理的対応、職域拡大などについて学修する。理学療法士としての専門知識と技能を活かして、理学療法士の職域新たな開拓はどのようなものが存在するののかについて学修していく。その新たな職域においても科学的根拠に基づいて説明することができるようにする。	

職業専門科目	基礎理学療法学	理学療法基礎セミナーⅠ	本科目では、理学療法士を目指す学生に対して、まずはじめにどのような資質が求められるかについて検討する。さらに、理学療法士の現状や課題、地域社会の課題や解決方法等をグループワークを行いながら演習形式で開講する。グループワークを通して、学生間とのコミュニケーション能力を高め、科学的な根拠に基づいた内容から検証していくこととする。	
職業専門科目	基礎理学療法学	理学療法基礎セミナーⅡ	本科目では、多くの医学的情報を収集し・分析し、科学的根拠に基づきながらこれらを解釈していく作業をグループワークを行いながら演習形式で開講する。事例を通してクリニカル・リーズニングを小グループで実施することで、対象者への支援したいという気持ちを持ちながら、批判的思考、自己学習能力、コミュニケーション能力などを獲得できるようにしていく。	
職業専門科目	基礎理学療法学	早期体験実習Ⅰ	障害のある幼児、児童等や地域在住高齢者の支援に貢献できる人材を養成するために、療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学を実施する。見学や施設の職員からの情報を基にして、各施設における職業内容を把握するとともに職業倫理を高める態度を養っていくため、理学療法士以外の職種と良好なコミュニケーションを取るための技術を学修する。また、理学療法士として、地域社会に貢献したいという思いが持てるように主体的に学修していく。	
職業専門科目	基礎理学療法学	早期体験実習Ⅱ	障害のある幼児、児童等や地域在住高齢者の支援に貢献できる人材を養成するために、療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学を実施する。各施設の職員および対象者とコミュニケーションを図りながら職員および対象者との良好な人間関係の構築し、他の職種や利用者からの情報を基にして理学療法士・作業療法士が果たすべき役割について学修する。また、理学療法士として、地域社会に貢献したいという思いが持てるように主体的に学修していく。	
職業専門科目	理学療法管理理学	医療関係法規論	理学療法士に限らず、医療関連職種はその職務遂行上、多岐にわたる法規のもとに業務がなされている。したがって、リハビリテーション医療の提供においては、業務遂行の基盤となりうる法規を理解することは不可避である。本講義では、リハビリテーション専門職として従事するために必要な法規および関連法規について理解するとともに、正しく職務を遂行するための根拠や判断基準を習得する。	
職業専門科目	理学療法管理理学	理学療法管理理学	本科目では、一般的な管理業務を学修し、さらにリハビリテーション専門職としての業務ならびに理学療法士としての業務を適正に管理・運営できるようにし、理学療法管理の意義と目的について説明できるようにする。医療組織人としての適性を高め、人事管理、業務管理、管理者に求められる知識・技術ならびに教育業務について科学的根拠に基づき学修していく。	
職業専門科目	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	理学療法士として必要な検査測定(情報収集、問診、形態計測、関節可動域テスト、筋力検査、反射検査、感覚検査)についてその意義、目的、検査方法、解釈について学修する。また、検査を実施する際のリスト管理についても学修し、安全にかつ高い精度を保ち、効果的な検査方法についても学修する。	
職業専門科目	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅱ	前半は、理学療法士として必要な検査測定(整形外科的検査、筋緊張検査、協調性検査、片麻痺機能検査、高次脳機能検査)についてその意義、目的、検査方法、解釈について学修する。また、検査を実施する際のリスト管理についても学修し、安全にかつ高い精度を保ち、効果的な検査方法についても学修する。後半は、検査結果の解釈などについて学修し、各疾患のケーススタディーで整理していく。	
職業専門科目	理学療法評価学	理学療法評価学実習Ⅰ	理学療法士として必要な検査測定(情報収集、問診、形態計測、関節可動域テスト、筋力検査)について、検査方法、記録方法を学修し、リスク管理についても整理していく。検査の実習では、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識して学修し、患者への負担をできる限り少なくできるようにしていく。	共同

職業専門科目	理学療法評価学	理学療法評価学実習Ⅱ	理学療法士として必要な検査測定(反射検査、感覚検査、整形外科的検査、筋緊張検査、協調性検査、片麻痺機能検査、高次脳機能検査)について、検査方法、記録方法を学修し、リスク管理についても整理していく。検査の実習では、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識して学修し、患者への負担をできる限り少なくできるようにしていく。	共同
職業専門科目	理学療法評価学	動作分析学	前半は、理学療法士としての動作分析の意義、正常な姿勢・動作分析の方法、統合と解釈について学修し、中盤以降は各疾患における動作の特徴、原因について解釈していく。動作の種類は、理学療法士として特に必要な基本動作(寝返り動作、起き上がり動作、立ち上がり動作、歩行、階段昇降)について学修し、経験則だけでなく科学的根拠に基づきながら原因を追究し解釈する。	
職業専門科目	理学療法評価学	動作分析学実習	本科目では、筋電図、トルクマシン、重心動揺計、3次元動作解析装置を用いて、各機器の計測の実習を行う。その目的は、理学療法士として経験則だけに囚われず「運動」を客観的に捉え、科学的根拠に基づきながら動作を解釈することが求められるからである。各機器の特徴から患者に必要な検査はどのようなものがあるのかも合わせて学修していく。	共同
職業専門科目	理学療法治療学	健康マネジメント論	肥満、肥満症、糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの予防に向けた食事や運動の実践方法とともに、健康診断データの性・年齢別の見方、そして心の健康を害さないためのストレス対策・メンタルタフネスの強化に向けた無理のない自己管理法について解説する。また、検査値に及ぼす短期的効果と長期的効果、更年期前と更年期後における出現効果の違い、後期高齢期における栄養供給の重要性等についても概説する。	講義15時間 演習15時間
職業専門科目	理学療法治療学	日常生活活動学	前半はADLの概念について学修し、理学療法士の視点からADLを評価する目的ならびに方法を理解する。基本動作における正常について各動作の構成している運動を解釈し、動作の特徴を理解する。後半は、疾患ごとのADLの特徴とその現象を捉え、科学的根拠に基づきながら理学療法士の専門性を活かし、ADL動作の指導方法について学修する。	
職業専門科目	理学療法治療学	物理療法学	物理療法とは、熱、冷、電気、水、光線、力学的負荷などの物理エネルギーを疾患の治療に適用するもので、リハビリテーション医療のなかでは運動療法とともに理学療法の両輪をなすものである。受講者は各種物理療法の理論を理解するとともに臨床で用いられる物理療法機器の適応と禁忌を理解した上で、科学的根拠に基づいて病態に応じた物理療法を選択し、更に各種物理療法機器の取扱いを習得する。	
職業専門科目	理学療法治療学	運動療法学実習	運動療法を施行するにあたり必要な基礎知識(関節の運動、関節可動域練習の分類や筋力増強運動、協調性運動、持久力増強運動、痛みに対する運動、随意運動、運動制御のメカニズム)を理解しながら、その知識を運動療法へ展開ならびに応用できるよう実技練習を通じて実践し、科学的根拠に基づきながら対象者に運動療法を提供できるよう学修していく。	共同
職業専門科目	理学療法治療学	運動器障害系理学療法学Ⅰ	高齢者に多い骨折と変形性関節症などの整形外科的疾患の病態の理解を深め、理学療法士として科学的根拠に基づき、適切な理学療法評価・治療の選択と方法を学び、実践ができる。また、安全な動作や生活に必要な補装具や環境設定について学び、実践する。	
職業専門科目	理学療法治療学	運動器障害系理学療法学Ⅱ	関節リウマチ、脊髄損傷、頸部疾患、腰部疾患などの整形外科的疾患の病態の理解を深め、科学的根拠に基づいて適切な理学療法評価・治療の選択と方法を学び、実践ができる。また、疼痛に配慮した動作や生活を送るためのサポートをの仕方を学び、実践する。	

職業専門科目	理学療法治療学	運動器障害系理学療法学実習 I	大腿骨頸部、転子部骨折患者、変形性股関節症患者、変形性膝関節症患者、ACL・PCL損傷患者に対する理学療法評価、理学療法アプローチの実習を行う。理学療法評価の実習では、科学的根拠に基づきながら安全で精度の高い評価を実践できるよう学修していく。さらに、理学療法アプローチでは、同様に科学的根拠に基づきながら安全かつ効果的な治療が実践できるよう学修していく。	
職業専門科目	理学療法治療学	運動器障害系理学療法学実習 II	本科目では、関節リウマチ患者、脊髄損傷患者、頸部疾患患者、腰部疾患患者に対する理学療法評価、理学療法アプローチの実習を行う。理学療法評価の実習では、各疾患における特徴を捉え、科学的根拠に基づきながら安全で精度の高い評価を実践できるよう学修していく。さらに、理学療法アプローチでは、同様に科学的根拠に基づきながら安全かつ効果的な治療が実践できるよう学修していく。	
職業専門科目	理学療法治療学	神経障害系理学療法学 I	脳血管障害の病態生理を理解し、急性期治療、機能回復のメカニズム等について学ぶ。また、病期に即した理学療法、各種ガイドラインで推奨されている理学療法評価や治療介入（運動療法）について理学療法士として科学的根拠に基づきながら理解する。	
職業専門科目	理学療法治療学	神経障害系理学療法学 II	神経筋障害の病態生理を理解し、急性期治療、機能回復のメカニズム等について学ぶ。また、病期に即した理学療法、各種ガイドラインで推奨されている理学療法評価や治療介入（運動療法）についても理解し、理学療法士として科学的根拠に基づきながら実践できることを目指していく。	
職業専門科目	理学療法治療学	神経障害系理学療法学実習 I	脳卒中片麻痺を中心に神経筋難病に対する運動療法、治療介入（理学療法プログラム）について学習する。理学療法ガイドラインをもとに機能障害に対する治療を模擬的に実践し、理学療法士として科学的根拠に基づきながらアプローチの実践ができることを目指す。	
職業専門科目	理学療法治療学	神経障害系理学療法学実習 II	急性期、回復期、維持期における脳卒中片麻痺患者の評価及び理学療法アプローチの実践について学修する。各期におけるそれぞれの特徴を捉えながらリスク管理を踏まえて、理学療法士として科学的根拠に基づきながら安全かつ効果的な方法を学修していく。	
職業専門科目	理学療法治療学	内部障害系理学療法学 I	呼吸・循環系を中心とする内部障害に対する理学療法を行うための基本的な知識と方法論を習得する。循環器系・呼吸器系の運動生理および特性と病態、心臓リハビリテーション、包括的呼吸リハビリテーションについて学修する。 (オムニバス方式/全15回) (② 巻 直樹 8回/15回) 理学療法士として、科学的根拠に基づきながら呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法ができるように学修する。 (14 瀬高 裕佳子 7回/15回) 循環器系障害に対する理学療法評価ならびに基本的な理学療法ができるように学修する。	オムニバス方式

職業専門科目	理学療法治療学	内部障害系理学療法学Ⅱ	呼吸・循環系、代謝系を中心とする内部障害に対する理学療法を行うための基本的な知識と方法論を習得する。循環器・呼吸器系リハビリテーションにおける画像所見、腎臓リハビリテーション、糖尿病に対するリハビリテーション、がんのリハビリテーションと理学療法評価、検査方法、運動処方、リスク管理について学修する。 (オムニバス方式/全15回) (② 巻 直樹 5回/15回) 理学療法士として、科学的根拠に基づきながら呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法ができるように学修する。 (14 瀬高 裕佳子 5回/15回) 循環器系障害に対する理学療法評価ならびに基本的な理学療法ができるように学修する。 (15 河村 健太 5回/15回) 代謝系疾患に対する理学療法評価と基本的理学療法を学修する。	オムニバス方式
職業専門科目	理学療法治療学	内部障害系理学療法学実習	循環・呼吸・代謝疾患、がん等の理学療法における臨床で用いられる手技について、疾患に対する病態、運動機能障害、適応を理解したうえで、実技練習を行い、技術習得を行う。理学療法評価、リスク管理方法、運動処方などを臨床応用できるよう実習を行う。 (オムニバス方式/全15回) (②巻 直樹 5回/15回) 理学療法士として、科学的根拠に基づきながら呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法ができるように学修する。 (13 瀬高 裕佳子 5回/15回) 循環器系障害に対する理学療法評価ならびに基本的な理学療法ができるように学修する。 (14 河村 健太 5回/15回) 代謝系疾患に対する理学療法評価と基本的理学療法を学修する。	オムニバス方式
職業専門科目	理学療法治療学	発達障害系理学療法学	小児期の疾患である、脳性麻痺、知的障害およびダウン症、重症心身障害、低出生体重、筋ジストロフィ、二分脊椎、その他の神経筋疾患、自閉スペクトラム症・限局性学習障がい・注意欠如多動症・発達性協調運動障がいなどの「発達障がい」について、それぞれの臨床像と障がいの特性と対応する理学療法の評価と治療体系の概略を学ぶ。	
職業専門科目	理学療法治療学	発達障害系理学療法学実習	発達障害系理学療法学で学んだ小児への理学療法が実施できるため、以下の系統別にICFに対応させる形で理学療法評価方法と治療方法を実習する。1.小児の運動発達の偏移 2.小児の姿勢反射の偏移 3.小児の運動器の偏移 4.小児の筋緊張の偏移 5.小児の呼吸循環器の偏移 6.小児の感覚処理系の偏移 7.小児の摂食活動の偏移 8.小児の粗大運動活動の偏移 9.小児のADL活動の偏移	
職業専門科目	理学療法治療学	老年期障害系理学療法学	本講義では、高齢者の特徴を踏まえ、疾患を有する高齢者との関わりを整理し、病期(急性期、回復期、維持期)別の理学療法について学修する。高齢者の理学療法を行う上で必要な評価の方法についても整理していく。さらに、地域在住高齢者に対しても予防分野の領域から学修し、地域在住高齢者の支援に貢献できる理学療法士を目指す。	
職業専門科目	理学療法治療学	老年期障害系理学療法学実習	高齢者(認知症含む)に対する接遇を理解し、リスク管理を意識した老年期障害に対する運動療法、ポジショニング指導、動作介助方法を学修していく。さらに、高齢者に対するフレイル予防、転倒予防についても理学療法士の視点より指導できるように学修し、地域在住高齢者の支援に貢献できるようにする。	共同

職業専門科目	理学療法治療学	義肢装具学	義手、大腿義足・下腿義足(義足歩行に生じる異常歩行含む)、上肢・下肢、体幹装具の基本構造と機能、その種類や適合方法について学修し、理解を深める。また、わが国における切断の状況や原因疾患についても学修する。さらに、義肢装具士の行う業務内容、チーム連携についても学んでいく。	
職業専門科目	理学療法治療学	運動障害・健康障害の自立活動論・指導法	肢体不自由特別支援学校や病弱特別支援学校における自立活動の授業の実践例をとおり、指導案や指導方法、評価方法について協議・検証し、自立活動の目標や内容の理解を深めていく。また、教員と作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の連携等の在り方等について考えを深めるとともに、各事例から指導目標、指導内容について具体的に助言について討論し、自立活動への助言のスキルを高める。	講義20時間 演習10時間
職業専門科目	理学療法治療学	スポーツ障害系理学療法学	科学的根拠に基づきながら、各スポーツ障害の発生机序、該当関節の機能解剖、多関節の運動連鎖からスポーツ障害について学修していく。さらに、発症からスポーツ復帰までの過程において、理学療法士として障害治療過程、競技特性、スポーツ動作を考慮したプログラムを作成し、スポーツ傷害予防の重要性について学修する。	
職業専門科目	理学療法治療学	生活環境学	生活環境の視点(物的環境・制度的環境・人的環境)をおさえ、障がい者や高齢者が住み慣れた地域とのつながりを持ち、最後までいきいきと生活するには、どのような住環境の調整・福祉用具の活用・街づくり・地域づくりの工夫ができるかを考える。また、事例検討を通じ、具体的な住環境整備の立案および提案方法を習得する。	
職業専門科目	理学療法治療学	集団支援論	「ひと」と「集団」の関係性を知り、理学療法士が集団的支援や集団的治療の現場でできること、役割を具体的に考える。そして地域施策の中で、対象となる集団の評価や支援の方法を立案し、運動教室等のドリルを通じて集団的力学を活用した支援方法を実践できる力を身につけ、理学療法士の専門性とこれからのあり方について理解を深めていく。	講義20時間 演習10時間
職業専門科目	理学療法治療学	サクセスフルエイジング論	メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニア、がん、MCI、認知症などの防止とともに、超高齢社会において身体的・精神的に元氣長寿を実現するための方策(食事・栄養、運動・体力づくり、認知機能保持・脳トレなどの知的活動、社会参加・社会的交流の促進など)、および日常生活における実践方法について具体的に詳述する。	
職業専門科目	地域理学療法学	地域理学療法学	現在では地域包括ケアシステムなど様々な制度を基盤にして多くの理学療法士が地域で活躍している。本講義では、地域理学療法学の全体像を捉え、各期(小児期、成人期、老年期)での個別の地域理学療法の実践について学修する。その情報から科学的根拠に基づいて地域で活躍できる理学療法士を養成し、さらに学生が地域に貢献したいという思いを持てるような講義にしていく。	
職業専門科目	地域理学療法学	バリアフリー論	バリアフリーとユニバーサルデザインの基本的な考え方を説明したうえで、世の中にある物理的なバリアの解消を目的とした施設・設備(点字ブロック、スロープ、各種の福祉機器など)、情報のバリアの解消を目的とした機器など困難に対応したバリアフリーの手法を紹介し、加えて心のバリアフリーの手法である障害理解および障害理解教育の理念と具体的な方法を教授する。	
職業専門科目	地域理学療法学	地域理学療法学実習	行方市で開催している介護予防教室の運営を見学し、一部補助を行う。実際に運営するにあたっては事前に練習する実習を行い、対象者のリスク管理を行いながら運営していく。運動機能、精神機能の評価、柔軟体操指導、筋力トレーニング指導、転倒予防に関する指導を見学、一部補助を実習していく。地域の人びとと接することで、地域社会に貢献したいという思いを持てるように学修する。	共同

職業専門科目	地域理学療法学	子ども支援学	<p>子どもを取り巻く物理的な環境及び社会環境の実態を解説し、子どもが健全な発達をしていくためには何が必要であるのか、また保育、教育、福祉、医療などがどのように連携していけばよいのかについて講述する。また、医療者の子育てとその支援に関する具体的な制度や施設を紹介し、理解を深めさせる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (13. 徳田 克己7回／15回) 発達相談、自閉症、衝動型、不注意型、保護者の相談、世界の子どもたちの環境について教授する。</p> <p>(55. 西村 実徳8回／15回) 子ども支援とは何か、子ども支援の法律、子ども支援の制度、子ども支援の実態、保育、院内保育、医療者の子育て支援、病児の支援について教授する。</p>	オムニバス方式
職業専門科目	理学療法臨床実習	通所・訪問リハビリテーション実習	<p>通所・訪問リハビリテーションを有している実習施設にて、通所・訪問リハビリテーション場面を見学し、通所・訪問リハビリテーションの目的ならびに意義を考察する。また、利用者ならびに家族、利用者本人に関わる多職種から生活状況や症状、障害などを聴取し、利用者ならびに家族のニーズを引き出すためのコミュニケーション技術も学修する。これらの実践を主体的に行うために日々の記録をまとめ、理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>	
職業専門科目	理学療法臨床実習	臨床実習Ⅰ	<p>実習施設にて理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ、作業療法評価学Ⅰ・Ⅱで学修した理学・作業療法評価を対象者に対して、指導者の監視の下、指導を受けながら見学→模倣→実践をする。その様な応用的学習の機会を得ることで、対象者の疾病や障害の理解を深める。また、対象者ならびに家族、利用者本人に関わる多職種から生活状況や症状、障害などを聴取し、対象者ならびに家族のニーズを引き出すためのコミュニケーション技術も学修すると共に、その聴取内容と評価結果との関連性を考察する。これらの実践を主体的に行うために日々の記録をまとめ、理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>	
職業専門科目	理学療法臨床実習	臨床実習Ⅱ	<p>実習施設にて理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ、作業療法評価学Ⅰ・Ⅱで学修した理学・作業療法評価を対象者に対して、指導者の監視の下、指導を受けながら見学→模倣→実践をする。また、対象者ならびに家族のニーズを引き出し、対象者の課題について評価結果から得られた情報を統合し、科学的根拠に基づいた視点から対象者の全体像を解釈していく。さらに、結果から問題点を抽出し、問題を解決する為にはどのような解決方法があるのかについても科学的根拠に基づき検証する。これらの工程から、対象者の目標を設定し、治療計画を立案する。これら一連の実習過程を通して、リハビリテーション関連職種の業務内容を踏まえた上で、チームアプローチの構築の仕方並びに、その重要性についても理解する。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>	
職業専門科目	理学療法臨床実習	臨床実習Ⅲ	<p>指導者の監視下において助言指導を受けながら、理学療法・作業療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための理学療法・作業療法治療計画を立案し、実践していく。また、列挙された解決方法に対して、科学的根拠に基づき検証する。さらに、理学療法・作業療法を展開する為の管理・運営に必要な知識・技術について理解する。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。</p>	

職業専門科目	理学療法臨床実習	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅲで修得した知識や技能を踏まえて臨床実習Ⅳでは、指導者の監視下において、臨床実習のⅢの経験値を十分に生かしながら実習に臨む。特に、知識、技術をさらに発展させ、対象者の評価をより正確なものにし、治療結果から評価の妥当性を考察する。さらに、理学療法・作業療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための理学療法・作業療法アプローチを立案し、実践していく。また、列挙された解決方法に対して、科学的根拠に基づき検証する。また、理学療法・作業療法を展開する為の管理・運営の実践を身に付けることができる。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。	
展開科目	理学療法展開科目	地域創生論	「自由な社会」の理念を形作ってきた哲学者や思想家の主な取り組みや人間の関係性の発達理論等について学修する。「自由とは何か」「信頼とは何か」など自分が経験・体験した中で協議することで対話的關係の大切さを学んでいく。また、地域の創成に成功した各地の取り組みやNPO法人の取り組み、特別支援学校における地域貢献や地域との共同事業の事例を取り上げ、障害のある子どもたちの可能性について追究する。	
展開科目	理学療法展開科目	世代間交流論	世代間交流の考え方と役割と取り組みについて学び、地域課題の解決策としての世代間交流プログラムのあり方について考える。はじめに乳幼児期、学童期、青年期、成人期、高齢期の各世代と交流するためにはどのような考えや意識をすべきであるかについて講義していく。各世代における価値観とはどのようなものであるかについても説明していく。さらに、講義から得た情報を基に各世代における事例を紹介し、事例ごとにおける課題解決方法について演習を行う。	講義20時間 演習10時間
展開科目	理学療法展開科目	リーダーシップマネジメント論	リーダーシップには自分自身に対するリーダーシップ(セルフ・リーダーシップ)と、周囲へのリーダーシップの2種類がある。人はえてして周りの言動に流されがちであり、こうした人間の特性を心理学の観点から学び、自分の意志で考えて行動する主体性の大切さを伝えていく。 まずは自分自身へのリーダーシップを発揮して、周りに流されることなく行動すること、そして次に周囲へのリーダーシップを発揮してチームの目標達成のために他のメンバーを引っ張り、影響力を広げることを意識し、実践する。	講義20時間 演習10時間
展開科目	理学療法展開科目	高齢者健康づくり政策論	高齢者の健康問題や課題を理解し、行政による高齢者の健康教育および健康づくりにおいて人材育成活動経験をもつ教員が、政策としてどのように行うかを解説する。政策として取り組むため必要な課題、その解決方法について概説していく。政策として起動させていくための仕組みや体制強化についても様々な事例を用いながら解説する。	
展開科目	理学療法展開科目	学校運営論	障害のある児童・生徒を教育する特別支援学校の運営組織や学校経営目標に基づく教育実践等について概観する。 (オムニバス方式/全15回) (50. 大森 正雄/8回) 今日的な課題としてのインクルーシブ教育システムの構築や障害者差別解消法に基づく合理的配慮の提供、学校の危機管理(リスクマネジメント)について解説する。 (51. 中川 深/7回) 医療や福祉、労働といった外部機関との緊密な連携のあり方について解説する。	オムニバス方式
展開科目	理学療法展開科目	経営組織論	本講義では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことを学修していく。具体的な課題(事例)を提示し、事業を推進していくための経営戦略、組織管理、人材管理についての知識を活かして、演習を通して学修していく。	講義20時間 演習10時間

展開科目	理学療法展開科目	ヘルスケアマーケティング論	これまで本邦の国民皆保険制度は他国に比べ優れていると評価されることが多かったものの、高齢化、科学技術の進化、国家財政の逼迫などの変化により岐路に立たされている状況にある。一方で、国民の高齢化が最も進んだ社会における介護保険制度や福祉サービスは世界から注目されている。これらの状況を踏まえて本授業では、本邦における公的サービスの限界や保険外サービスの展望から、次の時代を担う医療専門職となるための考え方を身につけるための講義、課題を行う。	講義20時間 演習10時間
展開科目	理学療法展開科目	就労支援サービス論	高齢者における労働環境について、ライフワークバランス、労働市場、労働に関する法律、就労支援に関する法律、高齢者の就労の視点から解説していく。さらに、事例を基にして就労支援計画を作成し、他の職種との連携、ネットワークの有効性について演習していく。	講義20時間 演習10時間
展開科目	理学療法展開科目	教育相談	人は、一生、すなわち子どもから老人までさまざまな変化と発達を遂げる。その変化と発達をとげる中でさまざまなライフイベントを経験し、さまざまな課題と困難に出会う。本講義は教育相談を実践する上で必要な、人の生涯発達の姿、発達課題、ライフイベントとその影響、人が出会う問題や困難を理解し、支援する上で必要とされる教育相談の基本となる理論と方法、および関係者との連携・協働の基礎、支援の態度、相談を実践上で必要な倫理を身につけることを目的とする。また事例研究を通し、一人ひとりの発達と変化の様相を思い描き、支援を通して人にとっての問題や困難の意味、教育相談の果たす役割を理解することを目的とする。	講義20時間 演習10時間
展開科目	理学療法展開科目	経営のための法律	法・法律は、日常生活に大きなかわりを持っている。この講義は、受講者が法学を専門としていない学生であることを前提として、法学の基礎になる知識や技術、ものの考え方を身につけ、具体的にイメージをもってもらうことをその内容とする授業である。また、事業所やプロジェクトを経営・運営していくうえで必要と思われる法律について解説し、具体的事例について演習を通して学修していく。	講義20時間 演習10時間
展開科目	理学療法展開科目	財務会計論	将来事業のプロジェクトに関わることを想定して、複式簿記の基礎から、貸借対照表と損益計算書の作成まで、演習を交えて実践的な講義を行う。さらにこれの財務諸表の持つ意味と重要性についての理解を深める。また、起業したときにかかる税金についての知識、あるいは資金調達を行う際などに求められる事業計画の立て方を学び、実際に利益計画と資金計画を作成して「経営する」ということを財務の面から考えていく場とする。	講義20時間 演習10時間
総合科目	応用理学療法学	理学療法研究法演習Ⅰ	本科目では、実践的ならびに応用的な能力を総合的に学修していく。そのためには、基礎科目、職業専門科目ならびに展開科目で学修した内容から興味・関心のある領域についての課題を発見していく。今回計画した研究テーマが、地域や臨床現場の課題解決として有効性についても検討し、新しいサービスへの活用方法も合わせて学修していく。課題発見解決能力を高めるために、地域や臨床現場が抱えている課題を創造し、その課題解決のための手法を実験や調査を実施する。	
総合科目	応用理学療法学	理学療法研究法演習Ⅱ	本科目では、実践的ならびに応用的な能力を総合的に学修していく。理学療法研究法演習Ⅰで得られた研究結果について考察を深め、地域や臨床現場の課題解決として有効性について検証し、新しいサービスへの活用方法も合わせて学修し、研究結果に留まらず地域ならびに臨床課題への解決手段としての有効性や新しいサービスへの活用についても合わせて報告していく。本科目を通じて、地域や臨床現場の課題について認識を深めながら、新しいサービスを提供できるよう論理的、科学的思考力を強化していく。	
総合科目	応用理学療法学	応用理学療法学演習	「障害のある幼児・児童等の教育支援領域」もしくは「地域在住高齢者の健康支援領域」における課題に対して、理学療法士としてどのようなアプローチを計画して支援できるかについて、課題解決プロジェクトをグループ活動ディスカッションを通じて戦略的に企画し、企画内容を発表していく。プロジェクトの企画については、展開科目の学修内容が基盤となり作成していき、基礎科目、職業専門科目で学修した内容から理学療法士としてどのようにアプローチするか実施計画を学修する。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(リハビリテーション学部作業療法学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	初年度セミナー 大学入門セミナー	大学入門セミナーは、学生が大学での生活と主体的な学修活動を始めにあたっての基本的知識や技能を修得することである。大学の教育目標や学部、学科の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について理解することとする。具体的には、大学における学習方法、社会秩序のあり方、倫理と道徳を学修し、作業療法学科の教育プログラムの情報を得ながら倫理観を持ち、他者との協働作業を通じて理解していく。 (オムニバス方式/全8回) ([7] 野村 聖子/4回) 大学の教育目標や学部、学科の教育内容や将来に向けてのキャリア形成について学修する。 ([6] 福本 倫之/4回) 作業療法学科の教育プログラムの情報を得ながら社会秩序のあり方、倫理と道徳を持ち、他者との協働作業を通じて理解しながら学修していく。	オムニバス方式
基礎科目	人間と生活及び社会の理解 社会人基礎力	社会人基礎力は、様々な人の価値観を尊重しながら、主体的な行動ができるために必要な能力である。本講義では、社会人基礎力を身に付けるための1つのツールとして「7つの習慣」を用いて行う。連続する段階を踏んで、個人の効果性、人間関係の効果性を高めていくための統合的なアプローチについて紹介していく。	共同
基礎科目	人間と生活及び社会の理解 教育学	医療従事者の日々の実践や活動にとって不可欠となる「教育」の概念や現代的な実践について考えるための知識を取り扱う。 (オムニバス方式/全8回) (18.長 創一郎/4回) 教育および教育学の基本的な概念や議論を概説し、また共生を実現するための教育についても説明する。 (19.小山田 建太/4回) 現代の教育問題ならびにそれらを克服するための教育的営為について、各テーマごとに概説する。	オムニバス方式
基礎科目	人間と生活及び社会の理解 ジェンダー論	現代社会をジェンダーの視点から捉えなおし、所与の物としてとらえてきた事象に潜むジェンダー問題について検討する。また、女性あるいは男性として生まれ育つことが、公私の領域でどのように人生を規定していくかを学ぶと同時に、「性の二分法」では捉えきれない性の多様性について学ぶ。さらに「性秩序」の解体と性の多様性が、今後どのような社会へと私たちを誘う(いざなう)のか、その行く末を展望する。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解 マナー接遇	理学療法士・作業療法士として、さまざまな領域で高い専門性を持ち活躍することが求められる中、他者理解と他者からの協力が不可欠となる。知識や技術に加えより良い人間関係を築くための原則や患者心理の理解など、個人差を十分理解して接していくことを理解し、社会人として、また医療従事者として対象者を支えるために必要なことや、相手に配慮した言動等について、敬語の使い分けや人々を与える印象、お礼状の書き方の実践等などから学んでいく。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解 社会学	社会学の基礎知識を題材にして、①日常生活における社会の経験を振り返り、その経験を生み出している社会の構造を知ることで、②人と人とのつながりである社会関係を起点に、社会集団(まとまり)、社会規範(きまり)、役割演技(ふるまい)など、社会学の基礎概念を使って「人生の舞台構造」を分析する視点を学ぶとともに、③個人と社会との接点・関わりを理解し、生活の成り立ちへの関心を高める。	

基礎科目	人間と生活及び社会の理解	文化人類学	フィールドワークに基づき、様々な民族の文化を研究することを通して、人間とは何かを研究する学問である文化人類学の研究領域と理論を理解した上で、世界各地の人々の日常生活の営みを題材に、人々の日文化の多様性と異文化理解の重要性について学ぶ。特に、「家族」や「医療福祉」をテーマに、より豊かな「生」を実現するための方法について考える。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	生命倫理学	ヒトも生き物の一員であるという観点から、生き物の「共通性」「多様性」「共生」を理解した上で、いのちを守るための原則（生命の尊厳や生命の質）、生殖補助技術の進歩とそれがもたらす問題、安楽死と尊厳死の問題などについて、具体的な事例をあげ共に考え議論を深める。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	発生生物学	たった1つの細胞である受精卵から、複雑な成体の体が作られる過程を発生と呼ぶ。この発生過程を進めるためには、多くの遺伝子が、時間を追って順番に、整然と働く必要がある。この授業では、発生を進める基本原理を学ぶとともに、次世代に生命をつなげることができる唯一の細胞である生殖細胞が作られる過程に焦点を当て、生殖細胞形成に関与する遺伝子の動物間での共通性と多様性に関して概説する。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	データサイエンス	データ分析基本プロセス、収集、加工、可視化、解釈において、社会でどのような方法が用いられているのか具体的な事例に対して紹介を行う。また、機械学習/AI、データ分析においてツール任せにして陥りやすい落とし穴について紹介を行い、データ活用時に人間が気をつけなければならない点の理解を深める。 時間が許せば、データ分析に用いられるPython/Rなどのプログラミング言語やその他分析ツールの紹介や演習を行うことも行いたい。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	法情報リテラシー	法・法律は、日常生活に大きなかわりを持っている。この講義は、受講者が法学を専門としていない、あるいは法学を学んだことのない学生の皆さんであることを前提として、法学の基礎になる知識や技術、ものの考え方を身につけ、具体的にイメージをもってもらうことをその内容とする。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	災害支援論Ⅰ	災害が起きたことによって生じてくる生活課題への支援について総合的に学び、災害支援のあり方や防災・減災に向けて私たちは何ができるのかを考えていく。また、災害時後に限らず、人や地域を支えていくことの意味を問い直していきながら、災害大国ともいわれるわが国で生活を送る上で見つめるべきことを探っていく（災害支援についての概念、総論について説明していく）。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	災害支援論Ⅱ	災害時の支援の方法について、災害後の緊急救援時における対人援助の専門職による実践の様子を知り、何が求められるのかを考える。避難所から仮設住宅での生活の変容を理解し、支援のあり方を考える。具体的に過去の災害における支援の事例を振り返り、私たちの考え方にどのように影響および変化を及ぼしたのかを知り、社会人として必要な支援方法について学修する。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	人間関係論	社会心理学、特に対人心理学の基礎、人間関係を自分の課題としてとらえて対処していく考え方、現代社会における人間関係上の病理、患者との人間関係を円滑に進めるための意識、親、子ども、夫婦の関係を正常に保つための知識、恋愛や友情の理論、高齢者や障害がある人との人間関係を適正に保つための知識を教授する。	
基礎科目	人間と生活及び社会の理解	アクセシビリティリーダー論	障害のある人々が包摂された社会を実現するために、多様な障害の理解や支援に関する幅広い講義を行う。具体的には、今日的な障害の捉え方や多様な障害の理解、社会的障壁の考え方、障害のある人に役立つ支援技術、諸外国と日本における支援の比較など、最新の話題を通して、障害のある人にとってのアクセシビリティとは、また、多様な背景をもつ人々が共生することのできる社会とはどのような社会なのかについて概説する。	

基礎科目	人間と生活及び社会の理解	運動障害・健康障害と心理	肢体不自由教育における歴史的経緯、心理や情緒の発達等に関する基礎的な知識を理解するとともに、学校現場で直面している心理的な問題に迫る。また、入院治療中、不登校、いじめ、虐待等の児童生徒における心理状態について、事例を通して支援方法を検討するとともに学校で実践されているグループワークアプローチについての基礎的理解を深め、実践方法について知る。	
基礎科目	健康への追求	スポーツ理論・実技 I	スポーツの歴史・文化や身体機能と運動メカニズムを学修し、必要な健康・体力づくりの知識を理解する。さらに、スポーツを通して自己の体力と健康状態を知り、日常生活の中で積極的に身体活動、スポーツやレクリエーション活動に参加できるようになり、周囲の人びとも身体活動等に参加を促していけるようになることを目標とする。学生のスポーツ歴や体力レベルの違いにより、一律に講義を計画通りに進めることが困難である場合は、別途内容を検討し、スポーツを楽しむことを学ぶことを重要として、授業を進めていく。	講義4時間 実習26時間 共同
基礎科目	健康への追求	スポーツ理論・実技 II	体力と健康の関係についての理論背景を学修し、体力の向上をすることで健康が維持できることを自己の運動から経験し、運動・スポーツを日常生活の中で習慣化できるようにしていく。さらに、その経験を周囲の人々に共感できるような環境を整備し、様々な人の生活を支援できることを意識して学修する。学生のスポーツ歴や体力レベルの違いにより、一律に講義を計画通りに進めることが困難である場合は、別途内容を検討し、スポーツを楽しむことを学ぶことを重要として、授業を進めていく。	講義4時間 実習26時間 共同
基礎科目	健康への追求	健康と食の科学	日本は平均寿命が男女ともに80歳を超え伸び続けているが、健康寿命と寿命の間にはいまだに約10年のギャップがある。最先端の医療を駆使しても、多くの加齢性疾患の治療は困難であるが、予防することは可能である。本講義では、日本人が伝統的に大切にしてきた医食同源という食による疾患予防の文化をアップデートする。これまでに人類が蓄積してきた食に関する膨大な知恵に加えて、最先端科学による明確なエビデンスに基づいた健康に役立つ「食」に関して学ぶことで、毎日の生活の中で実践できる知識を身につけることを目的とする。	
基礎科目	健康への追求	健康教育学	健康教育は健康の維持、増進、疾病の予防、治療、安全教育、性感染症予防教育のために、科学的根拠に基づきながら行動変容をいかに起こさせるかという分野である。本講義の目標は、健康行動のモデルや健康教育の手段、手順が説明できるようになることである。また、多彩な場面(家庭、職場等)での健康教育とはどのようなものであるかについても説明できるようになることとする。	
基礎科目	健康への追求	健康科学	学生生活や社会人生活において、健康に日常生活を送るためには、適度な運動、栄養、休養を送ることが重要である。健康活動するために科学的知見に基づき学修することが必要である。本講義では、前述した内容を分かりやすく解説し、健康の重要性、健康に対する意識やメカニズムを自己のみならず他者にも説明できるように学修する。	
基礎科目	国際言語の理解	英語コミュニケーション I	基礎的な文法と平易で短い会話表現の習得を目的としてはじめの時間は、文法等の確認による講義があるが、教員-学生間や学生間で会話を中心に演習していく。英会話を楽しく日常生活でも簡単に話せるようにしていくことを目標とする。	講義2時間 演習13時間
基礎科目	国際言語の理解	英語コミュニケーション II	基本的な文法と日常生活の実際場面を想定して英会話を演習方式で進めていく。具体的には、病院、公共交通機関、ホテル等における会話の仕方について学修する。英会話を楽しんでいけるよう主体的に取り組めるよう配慮していく。	講義2時間 演習13時間

基礎科目	国際言語の理解	中国語	本科目では、中国語（標準語）の基礎発音や会話をグループワークの形式で読み進めながら、基礎的な日常コミュニケーションや読解力の習得を目指す。具体的には漢字とその発音の練習、初級語彙、単語、文法、日常表現について、初めて中国語に接する学生にも楽しめるように習得できるよう基礎レベルの知識を学ぶ。また、様々な日常の情景会話を再現して、比較的簡単な会話練習を通して、初期応用中国語のコミュニケーション力を高める。	
基礎科目	国際言語の理解	韓国語	韓国語の入門クラスとして、韓国語の文字と発音を習得し、文法を理解しながら簡単な作文や読解を練習する。挨拶や自己紹介など基礎的なコミュニケーションスキルを身につけるとともに、シチュエーションに合わせた表現を学び会話力を高める。また、韓国映画やドラマなどのメディアを活用し、韓国社会や文化への理解を深める。	
職業専門科目	基礎医学	人体構造学 I	人体の骨格とその連結の構造と働き、筋の起始・停止、作用（関節の運動）、脊髄神経の構成、分布と機能、感覚麻痺、運動麻痺の機序について学ぶ。特に、日常の臨床に重要な機能に重点をおいて学ぶ。	
職業専門科目	基礎医学	人体構造学 II	脳神経・自律神経の構成と機能について学習する。内臓系器官の構造と機能がどのような組織や細胞の微細構造に基づいているかを理解する。また、細胞の機能と疾患との関係を理解する。	
職業専門科目	基礎医学	生理学 I	人体の機能(特に運動機能との関わり)についてメカニズムを踏まえて理解していく学問である。Iでは、動物機能として中枢神経系、末梢神経神経、筋(筋の種類、タイプ、運動単位等を含む)、感覚器(筋紡錘、触覚、特殊感覚等)の構造と機能について解説していく。	
職業専門科目	基礎医学	生理学 II	人体の機能(特に運動機能との関わり)についてメカニズムを踏まえて理解していく学問である。IIでは、植物機能として呼吸(肺容量、換気障害)、循環(血圧、血液の役割、心臓の作用)、代謝、ホルモン、消化(排便、口腔含む)、泌尿について基本的事項から解説していく。	
職業専門科目	基礎医学	人体構造学実習	人体の構造を骨格模型、骨格筋模型、神経分布の模型で立体的、総合的に理解する。実地に役立つように骨格、骨の基本的部位を体表から触診し、生体における位置を知る。関節の運動を行うことで、生体における筋の所在を触診する。主要な神経の所在と走行を体表から触診し、その働きを理解し考える。	
職業専門科目	基礎医学	生理学実習	人における生理的な計測方法を実習で学ぶ。また何らかの刺激による生理的变化についての実習を行う。実習で得られたデータを整理分析し、表やグラフへの表示について学ぶ。これらの生理的变化の仕組みについて考察する。	
職業専門科目	基礎医学	運動学 I	人間の身体運動を理解するために、現象としての身体運動を力学、解剖学と生理学へ還元して説明する。運動を科学的根拠の中から説明できるようにするために運動の基礎として関節ごとに概説していく。各関節がどのようなメカニズムで運動を成立させるのかを学修していく。さらに、各関節がどのような関係性を持って運動を行っているかについても学修する。	

職業専門科目	基礎医学	運動学Ⅱ	姿勢、歩行、走行等についての運動学的理論背景を学修し、理解を深め、第3者に説明できるようにする。臨床における問題を発見するために運動学的理論においては経験則的な視点だけではなく、科学的根拠を基に理解することに徹していく。また、運動発達、運動学習理論についても説明し、同様に科学的根拠に基づく理論について深く追及する。	
職業専門科目	基礎医学	運動生理学	生体における運動時の反応や運動に対する適応機序(呼吸、循環器、骨格筋、神経、血液、内分泌、エネルギー代謝など)について各回テーマを持って学修し、運動の機能的、構造的適応について理解を深めていく。健康増進を目的とした、身体活動を科学的根拠に基づいて実践するために必要な知識を身に付けることを目標とする。	
職業専門科目	基礎医学	人間発達学	生涯にわたる人間の身体・運動・認知・心理・社会の諸側面にわたって「発達」の現象と時系列におけるその変容を学ぶ。併せて、それらの理解の中から「発達」の法則性や変容が生じるメカニズム、発達理論の特徴について学ぶ。	
職業専門科目	基礎医学	運動学実習	骨と骨指標を効果的に触診することは、筋触診に進む前に到達しなければならない。まずはじめに骨、骨指標の触診法の技術について説明する。次いで、骨格筋の触診について説明し、それぞれの筋について触診手段を段階的に理解した上で容易に学習出来るよう、各々の手順の科学的根拠についても概説する。さらに、各筋におけるトリガーポイントも説明する。	共同
職業専門科目	基礎医学	神経解剖学	中枢神経系はどのような部位から構成されているか、どのような働きをするのかについて学ぶ。とくに、神経系の機能障害を理解するための基礎として、どのような神経回路に基づいてその機能が発現されるかについて学ぶ。	
職業専門科目	臨床医学	病理学	病理学は基礎医学と臨床医学との結びつける学際領域の学問である。次の5つを中心として教えること ①病理学において数多くの医学専門用語を覚えさせることや病的現象を理解させること。②総論において病理学の基本知識や疾患の共通点をしっかり把握させること。③疾患の成り立ちを理解させること。④各論においてそれぞれの病気を理解し、病気の成り立ちや形成の原因もしっかり把握させること。⑤各疾患の病理所見や臨床診療の要点との関連性などを把握させることとする。	
職業専門科目	臨床医学	内科学	本科目では、呼吸器疾患、循環器疾患、消化器官疾患、肝・胆・膵・腹膜疾患、血液疾患、内分泌・代謝疾患、膠原病、脳・神経疾患に関わる病態生理、症状、検査所見、治療法について学修していく。また、リハビリテーションを行う上で必要なリスクについても学修し、理学療法士として科学的根拠に基づきながら臨床上の課題を発見できるよう支援していく。	
職業専門科目	臨床医学	整形外科学	整形外科疾患についての検査、徴候、治療法について解説していく。具体的には、先天性疾患、骨折・脱臼(合併症含む)、切断、変形、靭帯損傷等の疾患について四肢、体幹から順次学修していく。さらに、整形外科医からの視点からリハビリテーション専門職への期待等についても説明していく。	
職業専門科目	臨床医学	神経内科学	神経系は運動・感覚・内部環境の自律に関わり、リハビリテーションの対象となる主要な障害の要因ともなる領域です。神経内科学では、神経系の障害がどのような症候として現れるのか、運動・感覚や、意識、記憶・認知機能、失語、注意障害、失認・失行、性格行動障害を含む高次脳機能障害など網羅的に把握し、また、脳血管障害、パーキンソン病など変性疾患、あるいは、筋ジストロフィー、腫瘍、外傷、感染など疾患を系統ごとに学習し、神経内科学的な診方や、考え方・洞察の基本を学ぶ。	

職業専門科目	臨床医学	精神医学	リハビリ専門職として必要な精神医学の基本的事項を概説する。具体的には、精神医学の概念と歴史、精神障害の成因や分類、診断基準と基本的な精神症状、疾患ごとの経過と治療等に関する知識を習得する。さらに、医療従事者として精神科領域で活動する際に求められる、こころの問題を「生物心理社会的(bio-psycho-social)」な視点で考える姿勢や、精神医学用語、最新の精神医学に関連する情報の見つけ方等についても触れ、習得した知識を臨床実践に活かす力を養成することを目的とする。	
職業専門科目	臨床医学	小児科学	医療分野における高度職業人として身につけるべき、小児科学について概説する。具体的には小児期の成長・発達、小児期に見られる主な疾患（アレルギー疾患、感染症、循環器疾患、消化器疾患、内分泌疾患、代謝疾患、呼吸器疾患、腎泌尿器疾患、神経疾患）などである。また、リハビリテーションの対象となる脳性麻痺や知的障害、発達障害、重症心身障害などを含め、小児科学における今日的課題の考察も含めて学習する。	
職業専門科目	臨床医学	リハビリテーション医学	基礎医学で学修した知識を基にして、リハビリテーションの対象となる各疾患(脳疾患、骨関節疾患、外傷、小児疾患、神経筋疾患、高齢者に多い疾患等)の障害像、リハビリテーションとの関わりを学ぶ。各種障害の評価、治療について科学的根拠に基づきながら説明できるようにすることを学修目標とする。	
職業専門科目	臨床医学	スポーツ障害学	スポーツ活動に関連する障害に対して、リハビリテーション職が果たす役割は大きい。スポーツ現場から医療機関内まで、その時の立場に応じて様々な対応が求められる。 本講義では、対応の根拠・思考の土台となるべき知識を学ぶ。「スポーツ障害」は種目、ポジション、年齢、性別、などによってそれぞれ特徴があり、疾患は多岐にわたる。講義中に紹介する疾患の知識を土台として、現場に通用する思考を養う。	
職業専門科目	臨床医学	老年医学	本講義では、超高齢社会となる我が国において老化・加齢とはどのようなメカニズムになるかを学修し、老年期に多い疾患について科学的根拠に基づき、病態生理ならびに特徴の知識を学修していく。さらに、老年期の対象者についての理学療法士の役割についても老年期疾患の特徴から検討する。	
職業専門科目	臨床医学	薬理学	授業を通じて、正常もしくは病的状態にある生体が薬物に対してどのような反応を示すかを理解する。薬物が作用する仕組みと臨床応用、さらには、副作用についての知識を得る。医療目的で用いられる薬剤は数も非常に多く、作用は個々で異なるため、限られた時間内で効率的なアウトカムを得るべく、薬理作用で分類・整理した代表的な薬物について学ぶ。	
職業専門科目	臨床医学	救急救命学	不慮の事故や突然の疾病は、海水浴、登山、競技中、遠征のための移動中など、時と場所に関係なく発生する。発生時の正しい対応が救命につながり、重篤な状態に移行することを防ぐ。したがって医療福祉にたずさわる人達は、緊急の事態を常に予想し、素早く適切な処置ができるような知識と技術とを身につけておかなければならないため、基本的知識から応急処置の仕方についても学修していく。	
職業専門科目	臨床医学	画像診断学	各種撮影法の基本原理と画像診断の理論を学修する。画像に関する内容は、胸部・腹部疾患、脳血管障害、脊椎・脊髄疾患、上肢・下肢疾患の内容とする。 (オムニバス方式／全15回) (33.平林 宏之／7回) 脊椎・脊髄疾患、上肢・下肢の運動器疾患に関する画像診断について学修する。 (34.牧山 康志／8回) 総論として基本原理と画像診断の理論、胸部・腹部疾患、脳血管障害の内容について学修する。	オムニバス方式

職業専門科目	臨床医学	リハビリテーション 栄養学	栄養スクリーニング、アセスメント、栄養ケアプラン、モニタリングおよび評価、教育などの栄養管理について学習する。また、代謝・内分泌疾患、腎疾患、循環器疾患、消化器疾患等の疾患や病態に応じた栄養療法についての理解を深める。	
職業専門科目	臨床医学	予防医学	予防の概念、健康の概念について情報を整理し、生活習慣病を予防するためにはどのようなことが必要であるかを解説していく。 (オムニバス方式／全15回) (16. 柳 久子／8回) 健康及び健康管理の概念、生活習慣病の予防、介護予防などについて担当する。 (3 柳 健一／7回) 産業領域の視点から予防医学を学修し、リハビリテーションの専門性を活かしながら対象者の健康を管理する視点について検討する。	オムニバス方式
職業専門科目	保健医療福祉論	リハビリテーション概論	病気とは何か、障害とは、また、障害者の権利に関する条約、高齢者等の擁護などの視点からリハビリテーションの概念、定義、リハビリテーション医療の流れ、リハビリテーション関連職種 of 専門分野、役割、あるべき姿、現状の課題などを教授し、リハビリテーション領域での理学療法士の専門性について科学的根拠に基づきながら検討していき、自らの役割を考える基盤を形成していく。	
職業専門科目	保健医療福祉論	保健医療福祉論	地域包括ケアシステムを中心に、①医療から介護、地域へという時代の流れを理解し（健康転換と医療の福祉化）、②超高齢社会における医療と介護の連携（多職種連携）や、③リハビリテーションの理念（地域包括ケアとリハビリテーション）について知識を深めるとともに、④事例調査を通じて知識の実際的な展開を理解することにより（課題研究）、⑤医療福祉の現場での仕事において基盤となる「包括」的な視点を学ぶ。	
職業専門科目	保健医療福祉論	公衆衛生学	公衆衛生学は、国民の健康増進や疾病予防を目的として、社会集団に対する取組や施策を検討する学問である。本授業では、集団の健康を理解するための方法論を解説するとともに、わが国における健康問題の現状と課題、保健医療福祉制度について概説する。	
職業専門科目	保健医療福祉論	地域包括ケアシステム論	日本の人口構造の変化、疾病構造の変化など社会的ニーズの変化や介護保険法、障害者総合支援法など制度の仕組みを学ぶ。地域で生活する療養者の模擬事例を用い、グループ討議により専門職として多職種連携について考察する。さらに、地域包括ケアシステムが推進されるに至った社会背景および関係法規と地域包括ケアシステムのしくみを学修する。また、地域で活躍する専門職である理学療法士・作業療法士の立場から地域包括ケアシステムに参画していく方向性を考察する。	
職業専門科目	基礎作業療法学	作業療法概論	生から死に至る様々なライフステージ（乳幼児から高齢者）における保健（予防）・医療（治療）・福祉（ケア）の一端を担うリハビリテーション医療の作業療法の位置付けを明確に展開する。作業療法の発展（歴史）を学ぶと同時に、日頃あえて意識することなく行っている日常生活活動を治療・指導・援助に生かせる作業療法の独自性と特長を理解する。さらに理学療法との違いを明確にすると共に、作業療法の基本的な知識を身につける。	
職業専門科目	基礎作業療法学	作業療法基礎セミナー I	本科目では、作業療法士を目指す学生に対して、まずはじめにどのような資質が求められるかについて検討する。さらに、作業療法士の現状や課題、地域社会の課題や解決方法等をグループワークを行いながら演習形式で開講する。グループワークを通して、学生間とのコミュニケーション能力を高め、科学的な根拠に基づいた内容から検証していくこととする。	共同

職業専門科目	基礎作業療法学	作業療法基礎セミナーⅡ	本科目では、多くの医学的情報を収集し・分析し、科学的根拠に基づきながらこれらを解釈していく作業をグループワークを行いながら演習形式で開講する。事例を通してクリニカル・リーディングを小グループで実施することで、対象者への支援したいという気持ちを持ちながら、批判的思考、自己学習能力、コミュニケーション能力などを獲得するようにしていく。	共同
職業専門科目	基礎作業療法学	早期体験実習Ⅰ	障害のある幼児、児童等や地域在住高齢者の支援に貢献できる人材を養成するために、療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学を実施する。見学や施設の職員からの情報を基にして、各施設における職業内容を把握するとともに職業倫理を高める態度を養っていくため、作業療法士以外の職種と良好なコミュニケーションを取るための技術を学修する。また、作業療法士として、地域社会に貢献したいという思いが持てるように主体的に学修していく。	
職業専門科目	基礎理学療法学	早期体験実習Ⅱ	障害のある幼児、児童等や地域在住高齢者の支援に貢献できる人材を養成するために、療育支援グループ、特別支援学校、地域包括支援センター、介護予防事業の見学を実施する。各施設の職員および対象者とコミュニケーションを図りながら職員および対象者との良好な人間関係の構築し、他の職種や利用者からの情報を基にして作業療法士が果たすべき役割について学修する。また、作業療法士として、地域社会に貢献したいという思いが持てるように主体的に学修していく。	
職業専門科目	作業療法管理学	医療関係法規論	作業療法士に限らず、医療関連職種はその職務遂行上、多岐にわたる法規のもとに業務がなされている。したがって、リハビリテーション医療の提供においては、業務遂行の基盤となりうる法規を理解することは不可避である。本講義では、リハビリテーション専門職として従事するために必要な法規および関連法規について理解するとともに、正しく職務を遂行するための根拠や判断基準を習得する。	
職業専門科目	作業療法管理学	作業療法管理学	本科目では、一般的な管理業務を学修し、さらにリハビリテーション専門職としての業務ならびに作業療法士としての業務を適正に管理・運営できるようにし、作業療法管理の意義と目的について説明できるようにする。医療組織人としての適性を高め、人事管理、業務管理、管理者に求められる知識・技術ならびに教育業務について科学的根拠に基づき学修していく。	
職業専門科目	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅰ	作業療法士として必要な検査測定(情報収集、問診、形態計測、関節可動域テスト、筋力検査、反射検査、感覚検査)についてその意義、目的、検査方法、解釈について学修する。また、検査を実施する際のリスト管理についても学修し、安全にかつ高い精度を保ち、効果的な検査方法についても学修する。	
職業専門科目	作業療法評価学	作業療法評価学Ⅱ	前半は、作業療法士として必要な検査測定(整形外科的検査、筋緊張検査、協調性検査、片麻痺機能検査)についてその意義、目的、検査方法、解釈について学修する。また、検査を実施する際のリスト管理についても学修し、安全にかつ高い精度を保ち、効果的な検査方法についても学修する。後半は、検査結果の解釈などについて学修し、各疾患のケーススタディーで整理していく。	
職業専門科目	作業療法評価学	作業療法評価学実習Ⅰ	作業療法士として必要な検査測定(情報収集、問診、形態計測、関節可動域テスト、筋力検査)について、検査方法、記録方法を学修し、リスク管理についても整理していく。検査の実習では、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識して学修し、患者への負担をできる限り少なくできるようにしていく。	共同
職業専門科目	作業療法評価学	作業療法評価学実習Ⅱ	作業療法士として必要な検査測定(反射検査、感覚検査、整形外科的検査、筋緊張検査、協調性検査、片麻痺機能検査)について、検査方法、記録方法を学修し、リスク管理についても整理していく。検査の実習では、高い安全性、高い精度さらに効率の良い方法を意識して学修し、患者への負担をできる限り少なくできるようにしていく。	共同

職業専門科目	作業療法評価学	活動分析学	ひとの暮らし(生活)に視点をあてた基本的な考えを踏襲しながら、非侵襲的な脳機能測定の進歩、社会脳などへの作業研究の広がりやを踏まえて、ひとの活動を分析する視点を養う。「ひとにとって作業とは」、「ひとが作業するとは何か」をあらためてとらえ、今後の作業療法支援の基礎となる分析力視点を学ぶ。	
職業専門科目	作業療法治療学	健康マネジメント論	肥満、肥満症、糖尿病、高血圧症、脂質異常症などの予防に向けた食事や運動の実践方法とともに、健康診断データの性・年齢別の見方、そして心の健康を害さないためのストレス対策・メンタルタフネスの強化に向けた無理のない自己管理法について解説する。また、検査値に及ぼす短期的効果と長期的効果、更年期前と更年期後における出現効果の違い、後期高齢期における栄養供給の重要性等についても概説する。	講義15時間 演習15時間
職業専門科目	作業療法治療学	日常生活活動学	日常生活活動の構成要素から学び、その評価方法を習得するとともに、日常生活活動支援における作業療法士の役割を理解する。さらに、対象者や家族に適切に動作指導が行えるように知識を習得する。	
職業専門科目	作業療法治療学	日常生活活動学実習	日常生活活動に対する作業療法評価方法の実践を学ぶと共に、支援の重要性を理解する。さらに、日常生活活動支援における作業療法士の役割を理解し、対象者や家族に適切に動作指導が行えるように技術を習得する。	共同
職業専門科目	作業療法治療学	生活環境学	生活環境の概念から学び、生活と福祉制度や施策といった制度的環境や家族や介護者等の人的環境の視点から、障害者や高齢者が自立し主体的な生活が保障される生活環境について理解する。さらに、対象に応じて生活環境整備を支援できる様に、物的環境支援についても学ぶ。	
職業専門科目	作業療法治療学	生活環境学実習	生活環境学から学び得た、生活環境の概念や人的環境、物的環境支援について、障害や高齢者などの対象が抱える環境問題に対して、適切な作業療法支援ができる様に実践的な学びを深める。特に、環境整備における物的支援については、福祉住環境の知識を適切に応用できるように学ぶ。	共同
職業専門科目	作業療法治療学	身体障害作業療法学	身体機能に関する治療概論の基礎や援助の方法、作業を用いた介入について学ぶ。次に、疾患・障害ごとの特徴を交えて作業療法評価の特徴や治療方法について講義やグループワークを介して学ぶ。さらに、疾患ごとの作業療法における思考過程を事例を通して習得する。	
職業専門科目	作業療法治療学	身体障害作業療法学実習	身体障害に関する治療概論や援助の方法、作業を用いた介入について演習を通して基礎を学ぶ。次に、模擬患者を通して介入の基礎や実際の方法についてグループワークを介して学ぶ。さらに、発表を通して自ら考案した介入についてのフィードバックをもらうことで知識を増やしたり、他学生の模擬患者への介入演習を聞くことで様々な思考過程を習得したりする。	共同
職業専門科目	作業療法治療学	精神障害作業療法学	日本の精神科医療の現状や歴史を振り返る。また、精神疾患における特性を理解し、様々な視点での対象者理解の把握に努める。精神科リハビリテーションを行っていく上で重要な薬物療法について基礎知識を得るとともに地域生活を支える障害福祉サービスの概要について把握する。入院・外来・デイケア・就労支援施設を中心に、臨床で活躍している作業療法士に業務内容を学ぶ。地域活動において、実際に支援を学ぶ。	

職業専門科目	作業療法治療学	精神障害作業治療学実習	施設および地域において、精神科領域に携わる職種の役割について理解し、その職種間連携の方法について学ぶ。次に、学内にて様々な症例検討を通して、各疾患の科学的根拠に基づく支援方法や再発予防について学ぶ。さらに、地域生活の支援ばかりでなく、就労支援の在り方やその方法についても学ぶ。	
職業専門科目	作業療法治療学	発達障害作業治療学	発達領域の障害を有する方への作業療法介入における基本的な知識と考え方、発達領域作業療法で用いられる基礎的な知識・理論・手法、定型発達、非定型発達、心身機能、感覚統合療法、ボバース法、応用行動分析、TEACCH、ペアレントトレーニングなどの発達領域作業療法の実践的な知識、各疾患における介入の実際について解説していく。	
職業専門科目	作業療法治療学	発達障害作業治療学実習	発達領域の障害に対する評価・治療プログラムの立案、介入技法の基礎的な実践を学ぶ。前提となる、障害の特徴を把握すること、子どもが発達し、周囲とともに生活するというライフステージの変化を踏まえて支援計画を立てることを目的とする。	
職業専門科目	作業療法治療学	老年期障害作業治療学	本講義では、高齢者の特徴を踏まえ、疾患を有する高齢者との関わりを整理し、病期(急性期、回復期、維持期)別の作業療法について学修する。高齢者の作業療法を行う上で必要な評価の方法についても整理していく。さらに、地域在住高齢者に対しても予防分野の領域から学修し、地域在住高齢者の支援に貢献できる作業療法士を目指す。	
職業専門科目	作業療法治療学	老年期障害作業治療学実習	高齢者(認知症含む)に対する接遇を理解し、リスク管理を意識した老年期障害に対する精神機能や認知機能への働きかけ、動作介助方法を学修していく。さらに、高齢者に対するフレイル予防、閉じこもり予防についても作業療法士の視点より指導できるように学修し、地域在住高齢者の支援に貢献できるようにする。	共同
職業専門科目	作業療法治療学	高次脳機能障害作業治療学	認知(高次脳機能)とは、知覚、記憶、学習、思考、判断などの認知過程と行為の感情(情動)を含めた精神機能を総称する。その機能が病気や事故などによって障害が起きたとき、認知機能にどのような変化が起こり、それを作業療法の視点からどのように捉えるかについての基礎を学習する。 (オムニバス方式/全15回) (④細田 忠博/3回) 高次脳機能の各論である言語障害やその他の高次脳機能障害について担当し、各障害の特徴と評価方法について学習を進める。 (⑥ 福本倫之/6回) 認知機能の神経基盤から教示し、高次脳機能の各論について学習を進める。高次脳機能の各論では注意機能及び記憶機能について担当し、その障害の特徴と評価方法について学修を進める。 (⑪ 坂本晴美/6回) 高次脳機能の各論である半側空間無視・行為障害・遂行機能障害について担当し、各障害の特徴と評価方法について学習を進める。	オムニバス方式
職業専門科目	作業療法治療学	高次脳機能障害作業治療学実習	認知(高次脳機能)とは、知覚、記憶、学習、思考、判断などの認知過程と行為の感情(情動)を含めた精神機能を総称する。その機能が病気や事故などによって障害が起きたとき、認知機能にどのような変化が起こり、それを作業療法の視点からどのように捉えるかについての基礎を学習する。	共同

職業専門科目	作業療法治療学	義肢装具学	義肢装具についての役割や基本的な手の構造、運動メカニズムについて学ぶ。次に、各種義肢装具の機能や部品やその特徴を学び、適応疾患との関連性を紹介する。そして、作業療法で関わる疾患についての実践に関する講義および事例紹介を行う。最後に、事例紹介を通して臨床実践の流れや効果性について学ぶ。	
職業専門科目	作業療法治療学	義肢装具学実習	義肢装具についての役割や基本的な手の構造、運動メカニズムについて学ぶ。次に、各種義肢装具の機能や部品やその特徴を学び、適応疾患との関連性を紹介する。そして、作業療法で関わる疾患についての実践に関する講義および事例紹介を行う。最後に、事例紹介を通して臨床実践の流れや効果性について学ぶ。	
職業専門科目	作業療法治療学	運動障害・健康障害の自立活動論・指導法	肢体不自由特別支援学校や病弱特別支援学校における自立活動の授業の実践例をとおし、指導案や指導方法、評価方法について協議・検証し、自立活動の目標や内容の理解を深めていく。また、教員と作業療法士、理学療法士、言語聴覚士の連携等の在り方等について考えを深めるとともに、各事例から指導目標、指導内容について具体的に助言について討論し、自立活動への助言のスキルを高める。	講義20時間 演習10時間
職業専門科目	作業療法治療学	リハビリテーション工学	リハビリテーション工学を理解するために、その歴史、手法、および実際の使用例について講義する。特に、作業療法士に必要な人体の制御機能特性と情報処理特性などに関して生体工学、人間工学、脳科学を中心に講義し、その特性に適合した福祉機器の選定や開発、利用方法について学習する。	
職業専門科目	作業療法治療学	職業リハビリテーション学	我が国の職業リハビリテーション施策の特徴、キャリア発達の理論、就労支援の現状・実際を概説し、障害者の職業的リハビリテーションについて、その知識の習得を目標とする。加えて、就業援助に関わる作業療法士の役割について理解する。	
職業専門科目	作業療法治療学	カウンセリング論	作業療法士にとって必要なカウンセリング・心理療法の基礎理論、および臨床の実際について、以下の4点を中心に学ぶ。 (1) カウンセリング・心理療法の基礎理論 (2) エビデンス・ベイスト・プラクティスとしてのカウンセリング・心理療法 (3) カウンセリング・心理療法における主要なアプローチ（認知行動療法・動機づけ面接等を含む） (4) カウンセリング・心理療法の最新動向	
職業専門科目	地域作業療法学	サクセスフルエイジング論	メタボリックシンドローム、ロコモティブシンドローム、フレイル、サルコペニア、がん、MCI、認知症などの防止とともに、超高齢社会において身体的・精神的に元気長寿を実現するための方策（食事・栄養、運動・体力づくり、認知機能保持・脳トレなどの知的活動、社会参加・社会的交流の促進など）、および日常生活における実践方法について具体的に詳述する。	講義20時間 演習10時間
職業専門科目	地域作業療法学	地域作業療法学	現在では地域包括ケアシステムなど様々な制度を基盤にして多くの作業療法士が地域で活躍している。本講義では、地域作業療法の全体像を捉え、各期（小児期、成人期、老年期）での個別の地域作業療法の実践について学修する。その情報から科学的根拠に基づいて地域で活躍できる作業療法士を養成し、さらに学生が地域に貢献したいという思いを持てるような講義にしていく。	
職業専門科目	地域作業療法学	バリアフリー論	バリアフリーとユニバーサルデザインの基本的な考え方を説明したうえで、世の中にある物理的なバリアの解消を目的とした施設・設備（点字ブロック、スロープ、各種の福祉機器など）、情報のバリアの解消を目的とした機器など困難に対応したバリアフリーの手法を紹介し、加えて心のバリアフリーの手法である障害理解および障害理解教育の理念と具体的な方法を教授する。	

職業専門科目	地域作業療法学	地域作業療法学実習Ⅰ	行方市で開催している介護予防教室の運営を見学し、一部補助を行う。実際に運営するにあたっては事前に練習する実習を行い、対象者のリスク管理を行いながら運営していく。運動機能、精神機能の評価、柔軟体操指導、筋力トレーニング指導、転倒予防に関する指導を見学、一部補助を実習していく。地域の人びとと接することで、地域社会に貢献したいという思いを持てるように学修する。	共同
職業専門科目	地域作業療法学	地域作業療法学実習Ⅱ	地域作業療法実習Ⅰを踏まえて、行方市で開催している介護予防教室の運営の一部補助を行う。実際に運営するにあたっては事前に練習する実習を行い、対象者のリスク管理を行いながら運営していく。運動機能、精神機能の評価、柔軟体操指導、筋力トレーニング指導、転倒予防に関する指導を見学、一部補助を実習していく。地域の人びとと接することで、地域社会に貢献したいという思いを持てるように学修する。	共同
職業専門科目	地域作業療法学	子ども支援学	子どもを取り巻く物理的な環境及び社会環境の実態を解説し、子どもが健全な発達をしていくためには何が必要であるのか、また保育、教育、福祉、医療などがどのように連携していけばよいのかについて講述する。また、医療者の子育てとその支援に関する具体的な制度や施設を紹介し、理解を深めさせる。 (オムニバス方式／全15回) (2) 徳田 克己7回) 発達相談、自閉症、衝動型、不注意型、保護者の相談、世界の子ども の環境について教授する。 (60. 西村 実穂8回) 子ども支援とは何か、子ども支援の法律、子ども支援の制度、子ども支援の実態、保育、院内保育、医療者の子育て支援、病児の支援について教授する。	オムニバス方式
職業専門科目	作業療法臨床実習	通所・訪問 リハビリテーション実習	通所・訪問リハビリテーションを有している実習施設にて、通所・訪問リハビリテーション場面を見学し、通所・訪問リハビリテーションの目的ならびに意義を考察する。また、利用者ならびに家族、利用者本人に関わる多職種から生活状況や症状、障害などを聴取し、利用者ならびに家族のニーズを引き出すためのコミュニケーション技術も学修する。これらの実践を主体的に行うために日々の記録をまとめ、理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。	
職業専門科目	作業療法臨床実習	臨床実習Ⅰ	実習施設にて理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ、作業療法評価学Ⅰ・Ⅱで学修した理学・作業療法評価を対象者に対して、指導者の監視の下、指導を受けながら見学→模倣→実践をする。その様な応用的学習の機会を得ることで、対象者の疾病や障害の理解を深める。また、対象者ならびに家族、利用者本人に関わる多職種から生活状況や症状、障害などを聴取し、対象者ならびに家族のニーズを引き出すためのコミュニケーション技術も学修すると共に、その聴取内容と評価結果との関連性を考察する。これらの実践を主体的に行うために日々の記録をまとめ、理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。	
職業専門科目	作業療法臨床実習	臨床実習Ⅱ	実習施設にて理学療法評価学Ⅰ・Ⅱ、作業療法評価学Ⅰ・Ⅱで学修した理学・作業療法評価を対象者に対して、指導者の監視の下、指導を受けながら見学→模倣→実践をする。また、対象者ならびに家族のニーズを引き出し、対象者の課題について評価結果から得られた情報を統合し、科学的根拠に基づいた視点から対象者の全体像を解釈していく。さらに、結果から問題点を抽出し、問題を解決する為にはどのような解決方法があるのかについても科学的根拠に基づき検証する。これらの工程から、対象者の目標を設定し、治療計画を立案する。これら一連の実習過程を通して、リハビリテーション関連職種の業務内容を踏まえた上で、チームアプローチの構築の仕方並びに、その重要性についても理解する。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。	

職業専門科目	作業療法臨床実習	臨床実習Ⅲ	指導者の監視下において助言指導を受けながら、理学療法・作業療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための理学療法・作業療法治療計画を立案し、実践していく。また、列挙された解決方法に対して、科学的根拠に基づき検証する。さらに、理学療法・作業療法を展開する為の管理・運営に必要な知識・技術について理解する。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。	
職業専門科目	作業療法臨床実習	臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅲで修得した知識や技能を踏まえて臨床実習Ⅳでは、指導者の監視下において、臨床実習のⅢの経験値を十分に生かしながら実習に臨む。特に、知識、技術をさらに発展させ、対象者の評価をより正確なものにし、治療結果から評価の妥当性を考察する。さらに、理学療法・作業療法評価結果を通して、対象者の真のニーズを達成するための理学療法・作業療法アプローチを立案し、実践していく。また、列挙された解決方法に対して、科学的根拠に基づき検証する。また、理学療法・作業療法を展開する為の管理・運営の実践を身に付けることができる。そして、実習を主体的に行うために日々の記録や対象者について報告書を作成する。それらの内容について理学療法士・作業療法士として社会に貢献していくために臨床的課題や解決方法について指導者と共に思考する。その内容を実習終了後に学内で報告する。	
展開科目	作業作業展開科目	地域創生論	「自由な社会」の理念を形作ってきた哲学者や思想家の主な取り組みや人間の関係性の発達理論等について学修する。「自由とは何か」「信頼とは何か」など自分が経験・体験した中で協議することで対話的関係の大切さを学んでいく。また、地域の創成に成功した各地の取り組みやNPO法人の取り組み、特別支援学校における地域貢献や地域との共同事業の事例を取り上げ、障害のある子どもたちの可能性について追究する。	
展開科目	作業作業展開科目	世代間交流論	世代間交流の考え方と役割と取り組みについて学び、地域課題の解決策としての世代間交流プログラムのあり方について考える。はじめに乳幼児期、学童期、青年期、成人期、高齢期の各世代と交流するためにはどのような考えや意識をすべきであるかについて講義していく。各世代における価値観とはどのようなものであるかについても説明していく。さらに、講義から得た情報を基に各世代における事例を紹介し、事例ごとにおける課題解決方法について演習を行う。	講義20時間 演習10時間
展開科目	作業作業展開科目	リーダーシップマネジメント論	リーダーシップには自分自身に対するリーダーシップ(セルフ・リーダーシップ)と、周囲へのリーダーシップの2種類がある。人はえてして周りの言動に流されがちであり、こうした人間の特性を心理学の観点から学び、自分の意志で考えて行動する主体性の大切さを伝えていく。 まずは自分自身へのリーダーシップを発揮して、周りに流されることなく行動すること、そして次に周囲へのリーダーシップを発揮してチームの目標達成のために他のメンバーを引っ張り、影響力を広げることを意識し、実践する。	講義20時間 演習10時間
展開科目	作業作業展開科目	体力測定実習	具体的な体力測定の方法を体力要素別に習得し、測定結果を適切に統計処理して体力を評価する。また、それらの内容を習得するにあたっては、行方市の一般介護予防事業に参加する地域在住高齢者を対象に検査・測定を行い、その結果を踏まえてリハビリテーションプログラム立案をするまでの一連の過程を学ぶ。	共同
展開科目	作業作業展開科目	高齢者健康づくり政策論	高齢者の健康問題や課題を理解し、行政による高齢者の健康教育および健康づくりにおいて人材育成活動経験をもつ教員が、政策としてどのように行うかを解説する。政策として取り組むため必要な課題、その解決方法について概説していく。政策として起動させていくための仕組みや体制強化についても様々な事例を用いながら解説する。	

展開科目	作業 作業 展開 科目	学校運営論	障害のある児童・生徒を教育する特別支援学校の運営組織や学校経営目標に基づく教育実践等について概観する。 (オムニバス方式／全15回) (55. 大森 正雄／8回) 今日的な課題としてのインクルーシブ教育システムの構築や障害者差別解消法に基づく合理的配慮の提供、学校の危機管理（リスクマネジメント）について解説する。 (56. 中川 深／7回) 医療や福祉、労働といった外部機関との緊密な連携のあり方について解説する。	オムニバス方式
展開科目	作業 作業 展開 科目	経営組織論	本講義では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことを学修していく。具体的な課題(事例)を提示し、事業を推進していくための経営戦略、組織管理、人材管理についての知識を活かして、演習を通して学修していく。	講義20時間 演習10時間
展開科目	作業 作業 展開 科目	ヘルスケア マーケティング論	これまで本邦の国民皆保険制度は他国に比べ優れていると評価されることが多かったものの、高齢化、科学技術の進化、国家財政の逼迫などの変化により岐路に立たされている状況にある。一方で、国民の高齢化が最も進んだ社会における介護保険制度や福祉サービスは世界から注目されている。これらの状況を踏まえて本授業では、本邦における公的サービスの限界や保険外サービスの展望から、次の時代を担う医療専門職となるための考え方を身につけるための講義、課題を行う。	講義20時間 演習10時間
展開科目	作業 作業 展開 科目	生活・福祉基盤論	社会少子高齢化が進み、これまでの青年壮年中心の効率中心の社会システムの見直しが進められている。今後は、人々が自立して、生き生きと働き、遊び、学ぶという生活の中で、生活の豊かさを実感できるようにすること、それを支援する、「生活・福祉基盤」を確立していくことが重要となる。障がい者、高齢者を含むすべての人々が、その地域社会を支える一員となる目標を持てる、地域社会に参加できる基盤について検討する。	講義20時間 演習10時間
展開科目	作業 作業 展開 科目	教育相談	人は、一生、すなわち子どもから老人まで様々な変化と発達を遂げる。その変化と発達をとげる中で様々なライフイベントを経験し、様々な課題と困難に出会う。本講義は教育相談を実践する上で必要な、人の生涯発達の姿、発達課題、ライフイベントとその影響、人が出会う問題や困難を理解し、支援する上で必要とされる教育相談の基本となる理論と方法、および関係者との連携・協働の基礎、支援の態度、相談を実践上で必要な倫理を身につけることを目的とする。また事例研究を通し、一人ひとりの発達と変化の様相を思い描き、支援を通して人にとっての問題や困難の意味、教育相談の果たす役割を理解することを目的とする。	講義20時間 演習10時間
展開科目	作業 作業 展開 科目	経営のための法律	法・法律は、日常生活に大きなかわりを持っている。この講義は、受講者が法学を専門としていない学生であることを前提として、法学の基礎になる知識や技術、ものの考え方を身につけ、具体的にイメージをもってもらうことをその内容とする授業である。また、事業所やプロジェクトを経営・運営していくうえで必要と思われる法律について解説し、具体的事例について演習を通して学修していく。	講義20時間 演習10時間
展開科目	作業 作業 展開 科目	財務会計論	将来事業のプロジェクトに関わることを想定して、複式簿記の基礎から、貸借対照表と損益計算書の作成まで、演習を交えて実践的な講義を行う。さらにこれの財務諸表の持つ意味と重要性についての理解を深める。また、起業したときにかかる税金についての知識、あるいは資金調達を行う際などに求められる事業計画の立て方を学び、実際に利益計画と資金計画を作成して「経営する」ということを財務の面から考えていく場とする。	講義20時間 演習10時間

総合科目	応用作業療法学	作業療法研究法演習Ⅰ	本科目では、実践的ならびに応用的な能力を総合的に学修していく。そのためには、基礎科目、職業専門科目ならびに展開科目で学修した内容から興味・関心のある領域についての課題を発見していく。今回計画した研究テーマが、地域や臨床現場の課題解決として有効性についても検討し、新しいサービスへの活用方法も合わせて学修していく。課題発見解決能力を高めるために、地域や臨床現場が抱えている課題を創造し、その課題解決のための手法を実験や調査を実施する。	
総合科目	応用作業療法学	作業療法研究法演習Ⅱ	本科目では、実践的ならびに応用的な能力を総合的に学修していく。作業療法研究法演習Ⅰで得られた研究結果について考察を深め、地域や臨床現場の課題解決として有効性について検証し、新しいサービスへの活用方法も合わせて学修し、研究結果に留まらず地域ならびに臨床課題への解決手段としての有効性や新しいサービスへの活用についても合わせて報告していく。本科目を通じて、地域や臨床現場の課題について認識を深めながら、新しいサービスを提供できるよう論理的、科学的思考力を強化していく。	
総合科目	応用作業療法学	応用作業療法学演習	「障害のある幼児・児童等の教育支援領域」もしくは「地域在住高齢者の健康支援領域」における課題に対して、作業療法士としてどのようなアプローチを計画して支援できるかについて、課題解決プロジェクトをグループ活動ディスカッションを通じて戦略的に企画し、企画内容を発表していく。プロジェクトの企画については、展開科目の学修内容が基盤となり作成していき、基礎科目、職業専門科目で学修した内容から作業療法士としてどのようにアプローチするか実施計画を学修する。	共同

学校法人筑波学園 設置認可等に関わる組織の移行表

大学新設

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
				専門職大学新設				
				アール医療専門職大学				
				リハビリテーション学部				
				理学療法学科	40	—	160	
				作業療法学科	40	—	160	
				計	80	—	320	
アール医療福祉専門学校				アール医療福祉専門学校				
看護学科	40	—	120	看護学科	40	—	120	
理学療法学科	40	—	160	理学療法学科	0	—	0	令和3年4月学生募集停止
作業療法学科	40	—	160	作業療法学科	0	—	0	令和3年4月学生募集停止
介護福祉学科	40	—	80	介護福祉学科	40	—	80	
日本語学科 (1年6か月コース)	20	—	40	日本語学科 (1年6か月コース)	20	—	40	
日本語学科 (1年コース)	20	—	20	日本語学科 (1年コース)	20	—	20	
医療事務学科	20	—	40	医療事務学科	20	—	40	
ITビジネス学科	20	—	40	ITビジネス学科	20	—	40	
計	240	—	660	計	160	—	340	